

名古屋駅駅前広場の再整備

「名古屋の顔づくり」アイデア発表会

令和元年 7 月 28 日（日）

14 : 00～16 : 00

1. 挨拶

名古屋市長 河村たかし

2. 概要説明 「名古屋の顔づくり」これまでの取り組み

名古屋市住宅都市局 主幹 井上 智

3. 市民のみなさまによる「名古屋の顔づくり」のアイデア発表

（講評者）

愛知産業大学学長

堀越 哲美 氏

専門は建築環境、都市環境、デザイン。名古屋市において、都市計画分野の各種委員等を歴任。
1993 年日本建築学会賞（論文）ほかを受賞。トータルデザイン検討会議副座長等。

法政大学教授

福井 恒明 氏

専門は都市景観、景観行政、社会基盤施設、空間のデザイン。主な著書に景観デザイン規範
事例集、主なプロジェクトとして外濠市民塾等。トータルデザイン検討会議等。

web 新聞「名駅経済新聞」編集長

森田 和美 氏

名駅・ささしま・円頓寺、中村公園かいわいなど、名駅エリアの街ネタを、「街の記録がかり」
として発信。デザイン会社・クーグート所属。大ナゴヤ大学メンバー等。

名古屋市長

河村 たかし

「名古屋の顔づくり」のアイデア発表者

発表者 1	こどもワークショップ「わくわく未来の名古屋駅前の広場」 西チーム
発表者 2	こどもワークショップ「わくわく未来の名古屋駅前の広場」 東チーム
発表者 3	名古屋新幹線駅前商工連合会
発表者 4	愛マネ
発表者 5	藤井 輝夫
発表者 6	風景塾 E 班
発表者 7	名古屋駅地区街づくり協議会
発表者 8	株式会社 竹中工務店

敬称略

「名古屋の顔づくり」について

歴史や文化、豊かな自然環境、最先端技術など名古屋らしさを
発信する空間づくりについて広く意見を伺いながら検討を進めます

キック
オフ

1/28

シンポジウム「名古屋駅駅前広場の再整備“始動”」

アイデア募集等

5/27

トークイベント
名古屋駅駅前広場の再整備
「名古屋の顔づくり」

「名古屋の顔づくり」アイデア募集

5/13～6/28

・アイデア募集
・アンケート

6/23、7/7

・こども
ワークショップ

本日

7/28

名古屋駅駅前広場の再整備
「名古屋の顔づくり」アイデア発表会

いただいたご意見を参考としながら、
「名古屋の顔づくり」の検討を進めます

トークイベント“名古屋駅駅前広場の再整備「名古屋の顔づくり」”

開催日

5/27

開催場所

JRゲートタワーカンファレンス

参加者

約250名

主旨

各分野の有識者が

「This is NAGOYA」を語る



【歴史】

インバウンド観光アドバイザー
クリス・グリーン氏



まちのアイデンティティは「歴史（過去）」があってこそ成立するものであり、名古屋駅の駅前広場は「名古屋」の過去・現在・未来を「伝える」「語れる」場所であってほしい、とご講演いただいた。



【文化】

金城学院大学教授
佐藤久美氏



地域のアイデンティティの一つである山車祭りを通じ、駅前広場が地域の人々をつなぐコミュニティの場所であり、祭りとからくりを用いて世界の方々をお出迎えする場所であってほしい、とご講演いただいた。



【観光】

株式会社JTB総合研究所
波瀲郁代氏



観光に対する価値観の変化や来訪者の多様化に伴い、これからのトレンドは来訪者それぞれにとっての地域との出会いであるため、駅前広場は来訪者にとって初めて地域の人と交流できる場所となり得る、とご講演いただいた。



【最先端技術】

グラフィックデザイナー
廣村正彰氏



マイクロミストを制御し、流れずに通り抜けるミストスクリーンや、LEDを並べた十字型プロペラにより生成した3Dホログラム等、最先端技術を活用し、名古屋らしさを演出する事例についてご講演いただいた。



【景観】

東京都市大学名誉教授
涌井史郎氏



中部圏の顔である名古屋の未来を輝かせるため、名古屋駅の駅前広場の再整備にあたり、名古屋市内での名古屋駅の役割や災害時の対応等、取り組む方向性についてご講演いただいた。

「名古屋の顔づくり」アイデア募集・アンケート

■ アイデア募集

実施期間 5/13～6/28

応募数 31件（東側16件、西側7件、両側8件）

※募集要項の条件を満たさないアイデアを含む

アイデアの概要

「歴史」に関しては金シャチや三英傑等、「文化」に関しては山車や音楽等、「活動」に関しては祭りやスポーツ等による人のにぎわいが見える場、「最先端技術」に関しては映像やスマートモビリティを活用した案など、様々なアイデアが提出された。

■ アンケート

実施期間 5/13～6/28

回答数 107件

Q

「This is NAGOYA」を語る上で重視する視点を「歴史」「文化」「自然環境」「最先端技術」「その他」の中から一つ選択

他

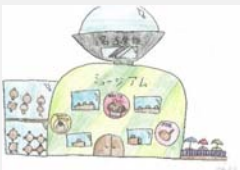
■ こどもワークショップ

開催日 6/23、7/7

参加者数 15名

アイデアの概要

- ・小川のある広場
- ・アニメの舞台としたい
- ・名古屋飯を食べたい「名古屋飯ミュージアム」
- ・みんなでまちをきれいにしておもてなし



【歴史】15件



- 金シャチ
- 三英傑
- 名古屋城

アンケート11%

【文化】17件



- 山車
- 音楽
- 飛翔
- 木曾ヒノキ
- 地下街

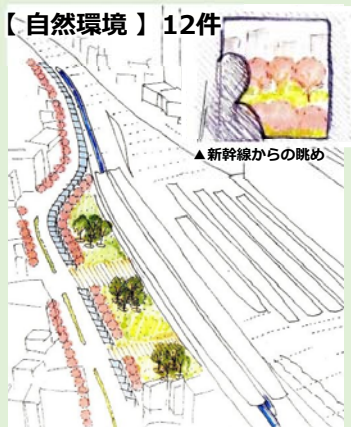
アンケート18%

【活動】14件



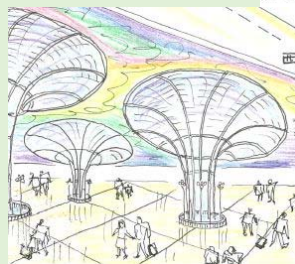
- 祭り
- スポーツ
- にぎわい
- 体験
- 感動
- 出会い

【自然環境】12件



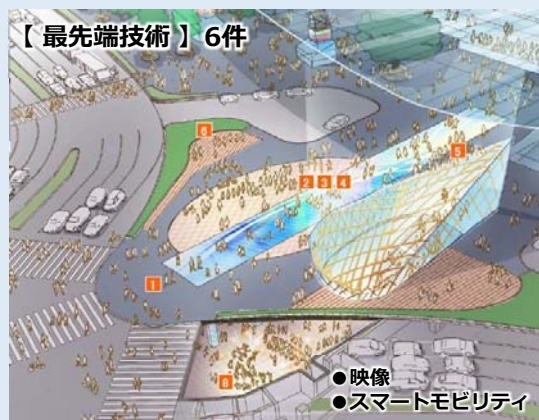
▲新幹線からの眺め

- 緑
- 季節感
- 桜
- 太陽光



アンケート18%

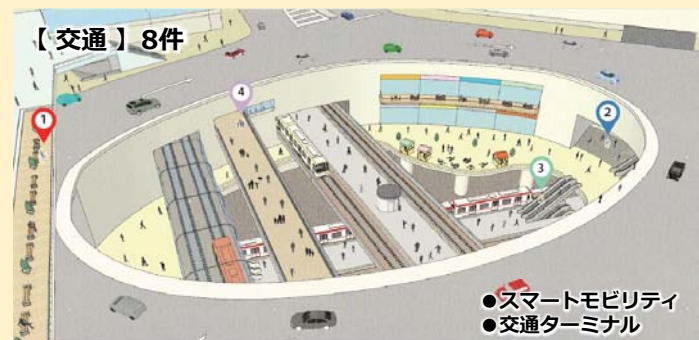
【最先端技術】6件



- 映像
- スマートモビリティ

アンケート31%

【交通】8件



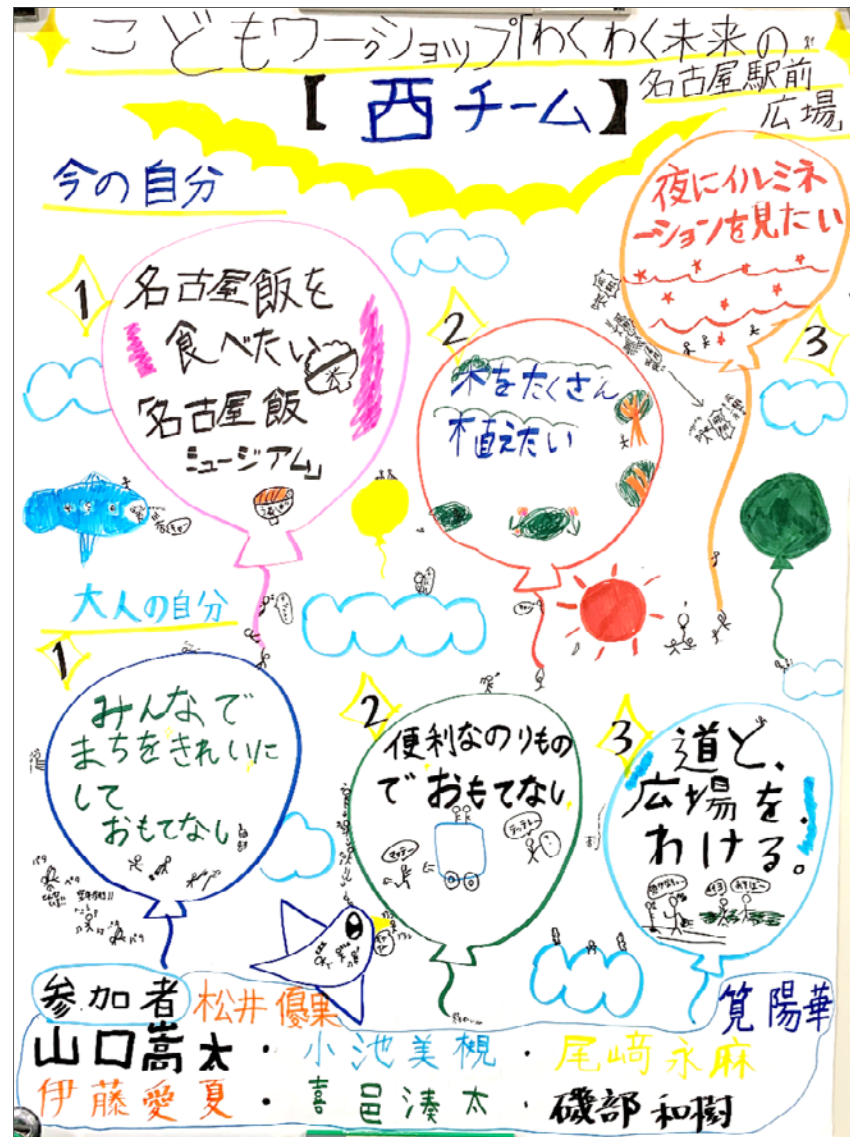
- スマートモビリティ
- 交通ターミナル

※複数のテーマにまたがるアイデアがございます

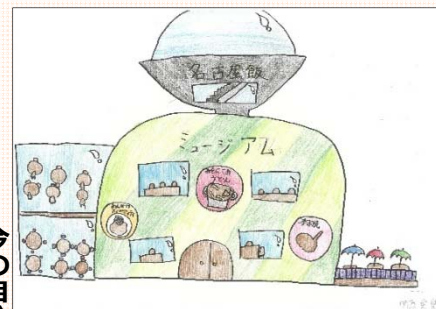
「名古屋の顔づくり」アイデア募集

アイデア全集

こどもワークショップ 「わくわく未来の名古屋駅前の広場」



今の自分が将来の駅前広場でやってみたいこと・やってみたら楽しそうなこと



1位：名古屋飯を食べたい「名古屋飯ミュージアム」



2位：木をたくさん植えたい

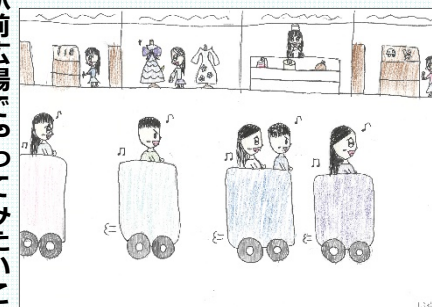


3位：夜にイルミネーションを見たい

大人になった自分が将来の駅前広場でやってみたいこと・やってみたら楽しそうなこと



1位：みんなでまちをきれいにしておもてなし

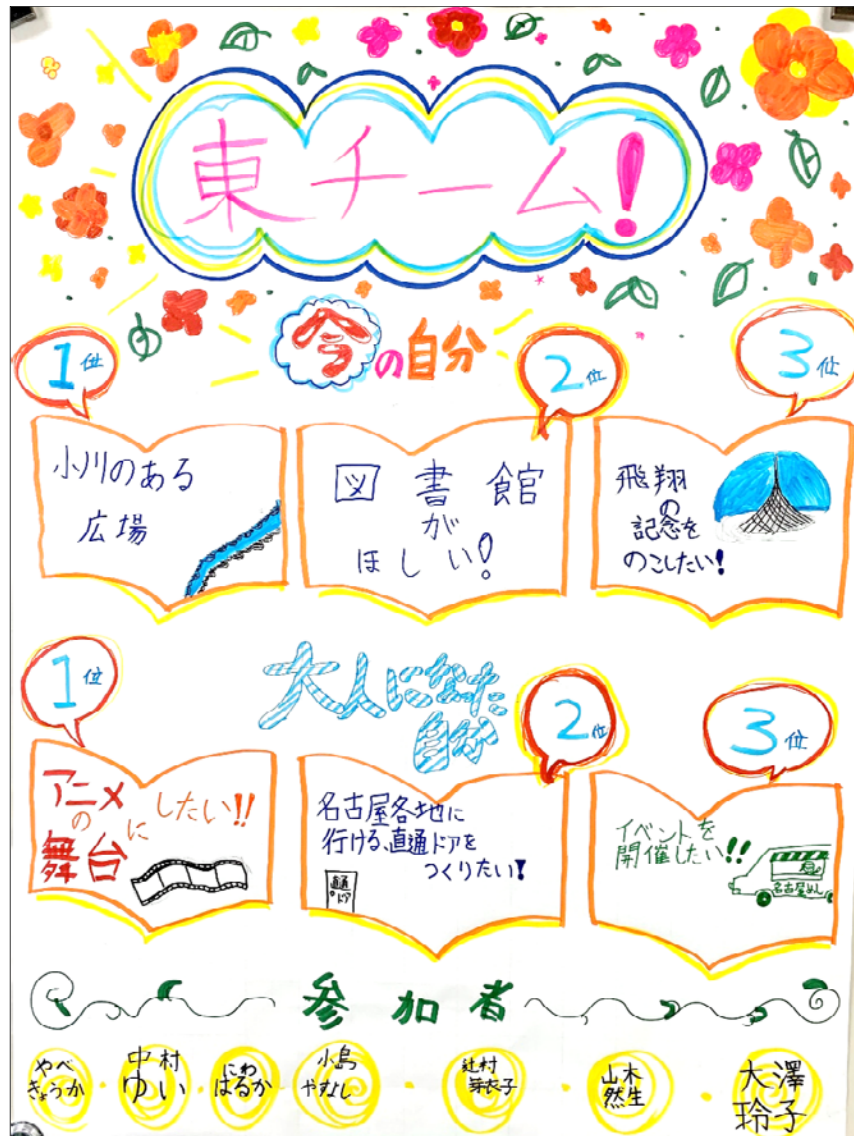


2位：便利なのりものでおもてなし

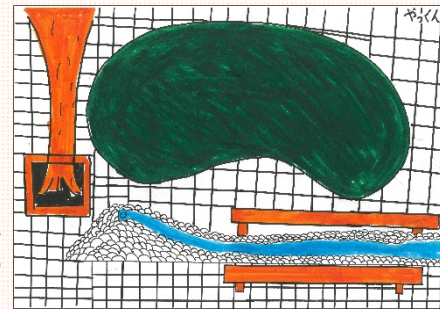


3位：道と広場をわける

こどもワークショップ 「わくわく未来の名古屋駅前の広場」



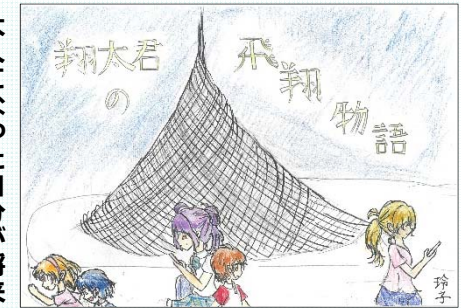
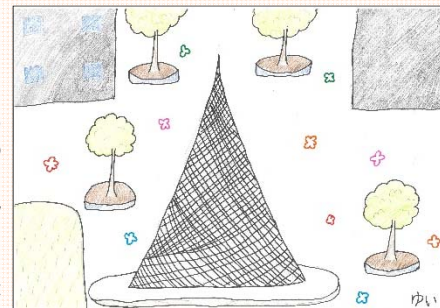
今の自分が将来の駅前広場でやってみたいこと・やってみたら楽しそうなこと



1位: 小川のある広場



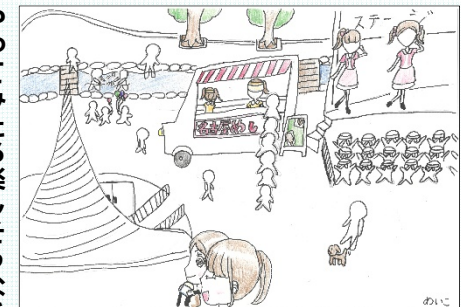
2位: 図書館がほしい



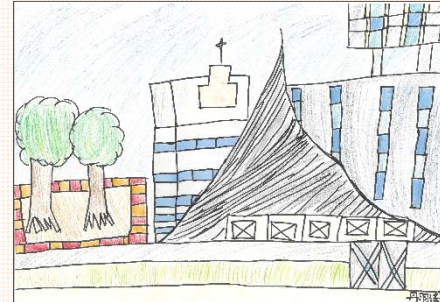
1位: アニメの舞台にしたい



2位: 名古屋各地に行ける直立ドアをつくりたい



3位: イベントを開催したい



3位: 飛翔の記念を残したい

大人になった自分が将来の駅前広場でやってみたいこと・やってみたら楽しそうなこと

「THIS is NAGOYA」について

表題について…(西側エリア)

『駅前杜 計画』

駅前の広場は、よく何もない広場、あるいは植栽が一部にある広い空間となっていることが多いと思います。うたい文句が「皆が集う憩いの広場」というような、コンセプトとなっています。しかし、ここ数年真夏でなくても「熱中症」等が発生しています。このような広場では、熱中症の発生源となる恐れがあります。このため駅前広場を、動線の部分を除いて森をイメージするほど



の植栽の部分を作る。他の駅には無い「駅前の杜」を配してはどうでしょうか。熱中症の発生源とならないために、また、気温を少しでも下げられるためにも役立つのではないかと思います。

新幹線沿いの南北の道路には、桜の植栽 桜並木とし、駅を出てすぐ「春」には桜が目に入ります。駅西地区への観光客の誘導としては非常に良いのではないかと思います。

また、新幹線の車窓から「桜並木」が見える 名古屋を通過する人にも強力にアピールするのではないかと思います。

歩道には、ハーフの屋根を連続して設置し、歩道のカバーをする。屋根にはソーラーパネルを設置し歩道の灯りとする。

この屋根のある道路沿いは、観光バスの降車場と、路面電車の乗降場とする。

路面電車は将来名古屋への観光客誘致に大いに力になると思います。

駅前広場から駅西地区への観光客の誘致のためには、駅前広場だけの計画だけ(点)ではなく、エリア(面)への広がりを考えて欲しいと思います。

『駅前杜 計画』

[太閤口から見た広場～朝～]

<しゃちほこ>

二匹のしゃちほこが裏表使うことが可能なデジタルパネルを挟んでいる。デジタルパネルには、日時、時間、ワット数などのリアルタイム情報が表示される。また、しゃちほこの周りを魚を泳がせた水槽で囲み、人が座れるようにする。座る部分をクリアにし、座りながら下に泳いでいる魚を見られるようにすることで、夏場の清涼感を高めることを図っている。水槽の側面を石垣風にデザインすることによって、名古屋城のイメージを伝えると共に、水槽内の汚れが目立つことを防止する。夜には毎日しゃちほこをライトアップすることで、一日中広場の待ち合わせスポットにできる。



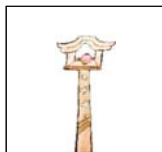
しゃちほこ (朝、昼)



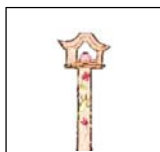
しゃちほこ (夜)

<街灯>

九種類の山車をモチーフにした街灯が夜の広場を幻想的に照らす。素材は名古屋能楽堂などで使われており、古来から盛んに使われてきた木曽ヒノキを使用。



←二福神車
紅葉符車→

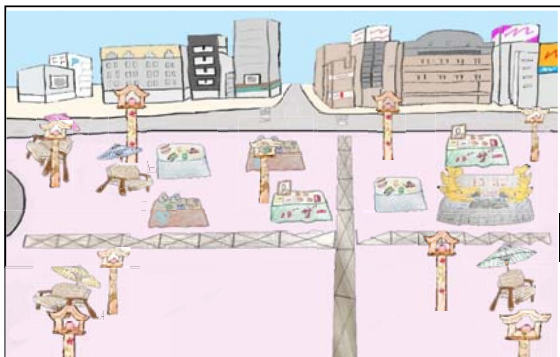


【コンセプト】

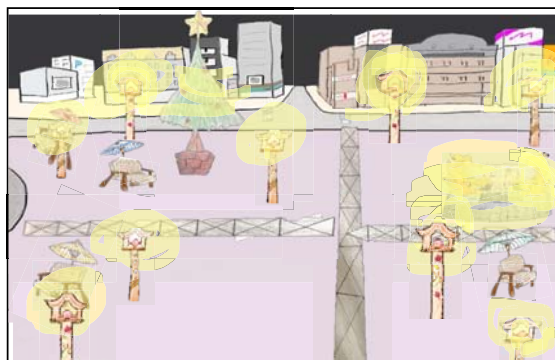
Connection of spirits

～歴史・伝統と最先端技術の合わさった魅力の溢れる空間と市民が誇れる広場～

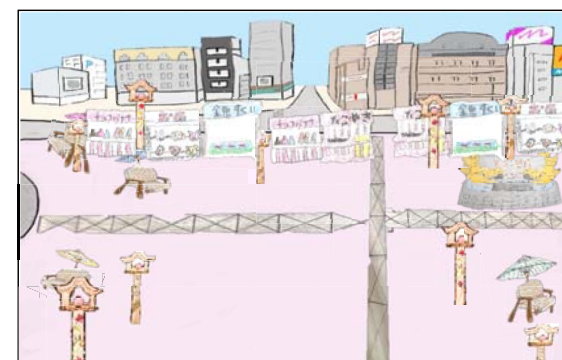
[バザー～春・秋の昼～]



[イルミネーションとライトアップ～冬の夜～]



[お祭り～秋の昼～]



<ベンチ>

二人掛けベンチ。

背もたれの部分には三英傑の家紋や名古屋の名物を描く。

色とりどりの和傘を使用。(ビルからみてもきれいに)

傘は雨が掛かることで模様が浮かび上がる。模様は桜、モミジなどベンチにあった和柄。

雨の日や日差しが強い日でも使ってもらえるベンチ。

和傘、ベンチの背もたれの絵で和の空間を演出しつつ今人気のある写真が撮りたくなるようなスポットを目指す。



←晴れの日



雨の日→

<道>

タクシーや商店街、乗り換えの導線として分かりやすく引く。

人が歩くことで自家発電する発電床を置く。(イメージ：

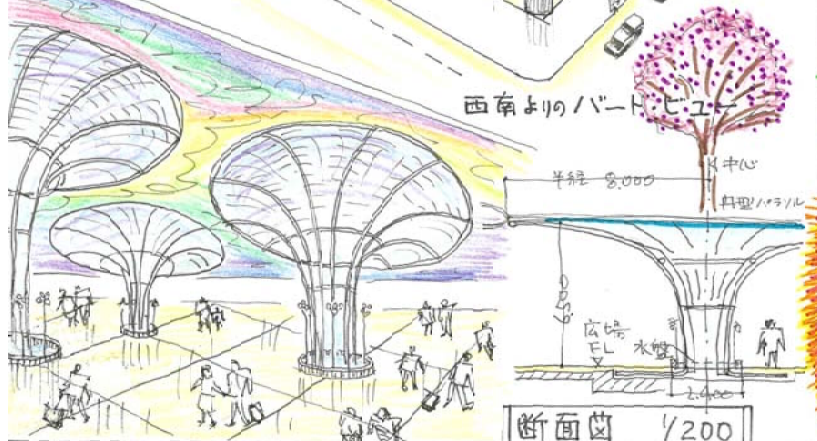
<https://pavegen.com/>)

災害時にも明かりがある広場にする。

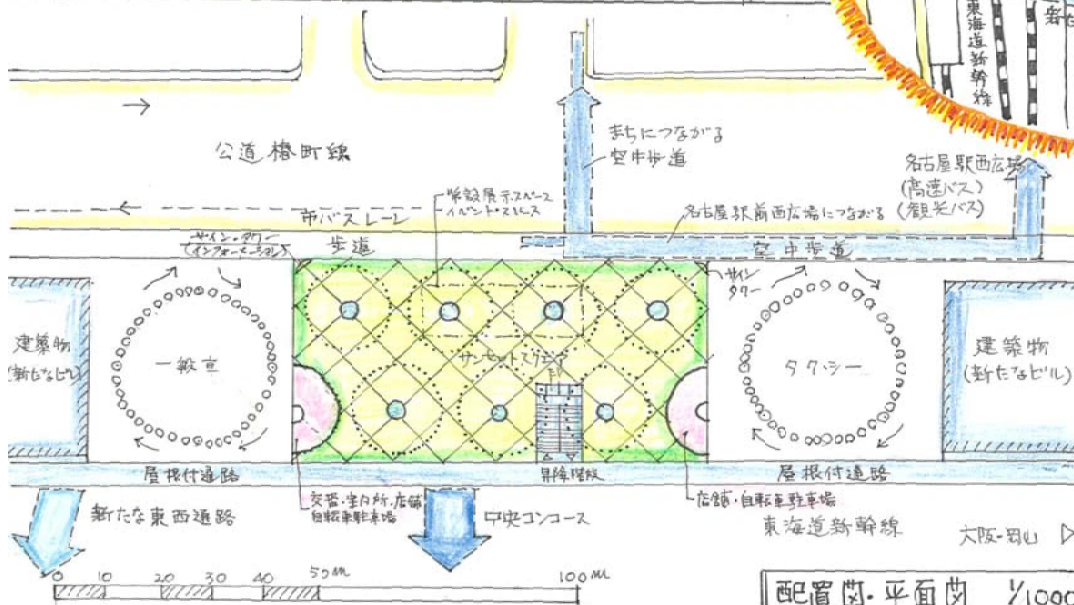
名古屋駅前広場-西側エリア-サンセットスクエア



西南よりのパードビュー



断面図 1/200



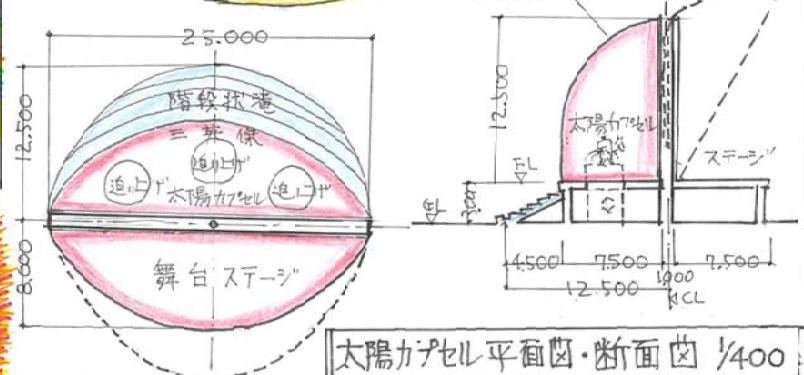
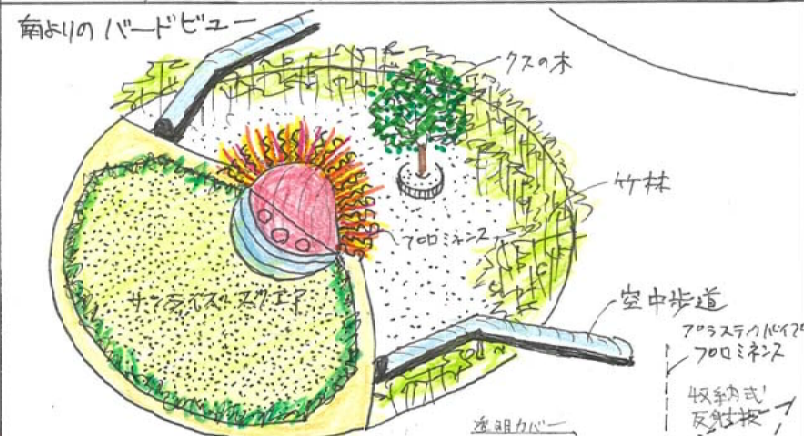
デザイン・フィロソフィ(エ)

宇宙論の通説から恒星の一生は100億年と
さ水46億年を生きてきた太陽もあと50億年を経て赤色
巨星になって惑星を飲み込みやがて超新星爆発を起
してその生涯を終える。しかし太陽の余命50億年の時空は
地球人にとっては無限・永遠・未来」として輝かしい未来を約束
してくる!地球の自転が止まらない限り太陽は東より昇り西
に沈むこの自然の摂理である太陽の日の出を「日出づる國日本
を代表は傑作と輝く太陽と「名古屋の顔」とした!
太陽光は「愛・平和希望・繁栄未来」を象徴し光・
風・水」の自然の恵みと与えける強靱なパワーがある。
このパワー(エネルギー)を東側エリア(サンライズスクエア)に表
現し、日没後の静かな「天の川」銀河を西側エリア(サン
セットスクエア)として位置付けハレヒューマンスケールで親し
み、優美な癒しの空間をデザインして提案する。

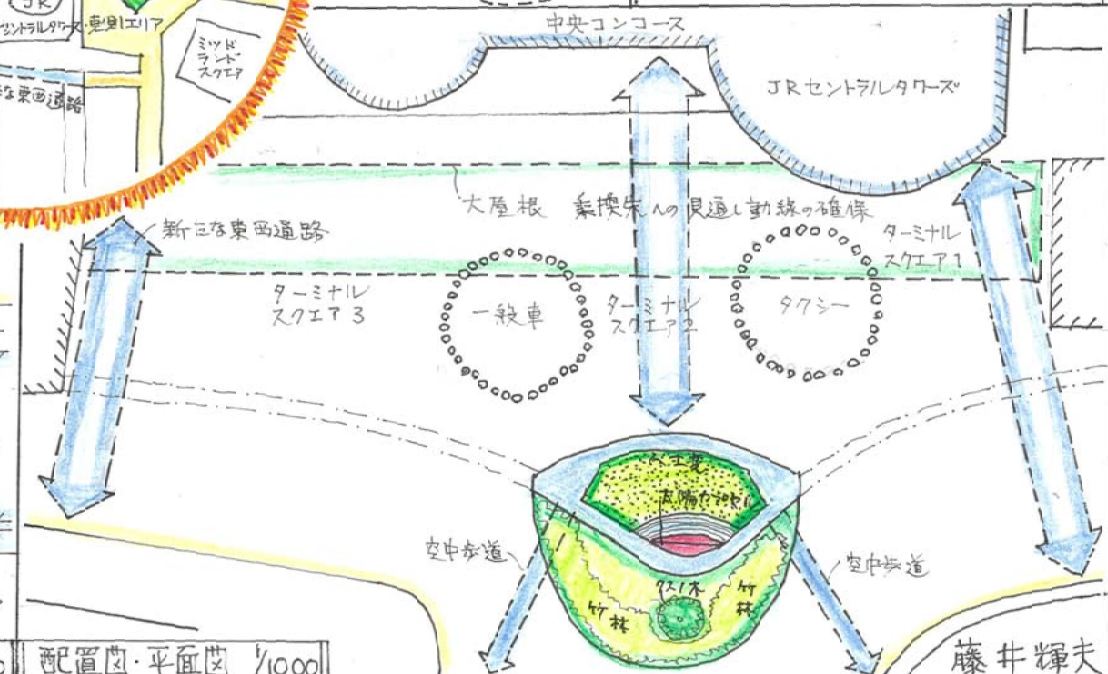


配置図・平面図 1/1000

名古屋駅前広場-東側エリア-サンライズスクエア



太陽カプセル平面図・断面図 1/400



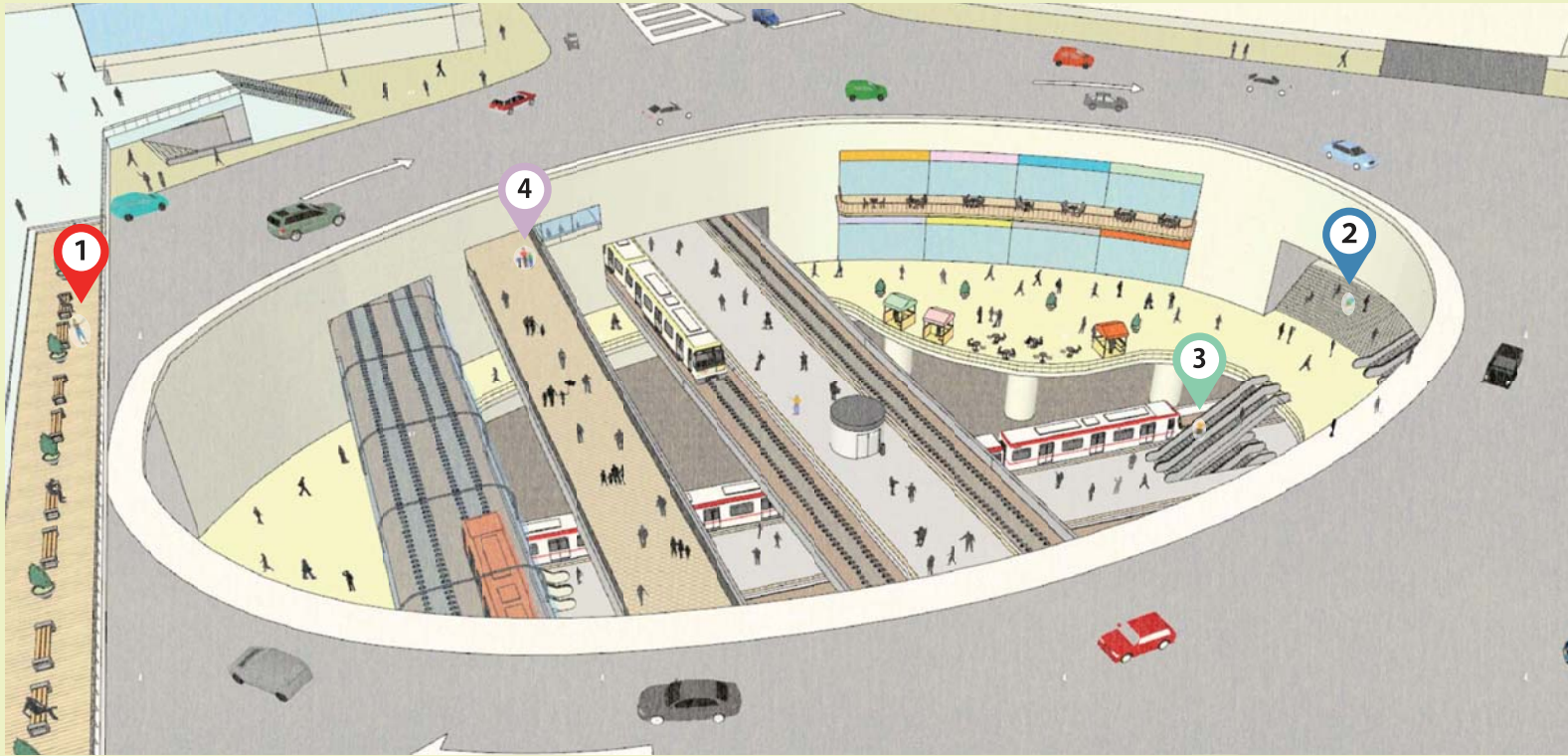
配置図・平面図 1/1000

藤井輝夫

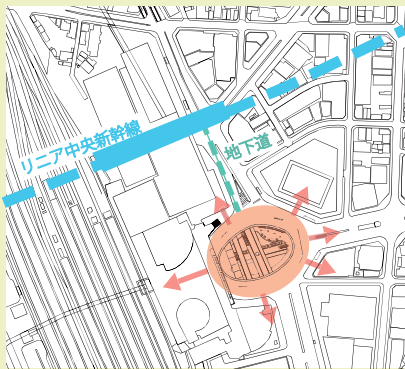
NAGOYA HOLE

Concept

1886年に東海道線が開通。時代がとんで、1941年に名鉄名古屋駅が開業。1957年に東山線が開通。地下鉄の工事にあわせて地下街が施工され、これと同時期に周辺のビルが形成された。1989年に桜通線が開通。2016年にはJRゲートタワーが完成した。歴史を振り返れば、名古屋は地下・地上・空中と立体的に街を形成してきたことがわかる。今、名古屋の中心に穴を開ける。空から地下を見る。地下から空を見る。私たちは積み重なってきた名古屋の顔に新しく出会う。

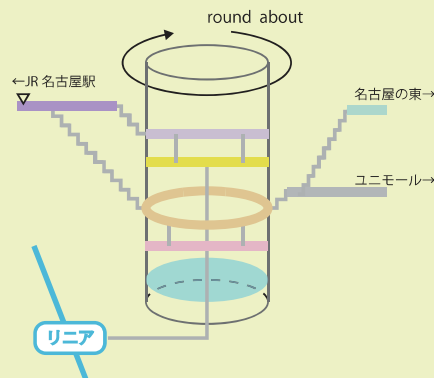


Area



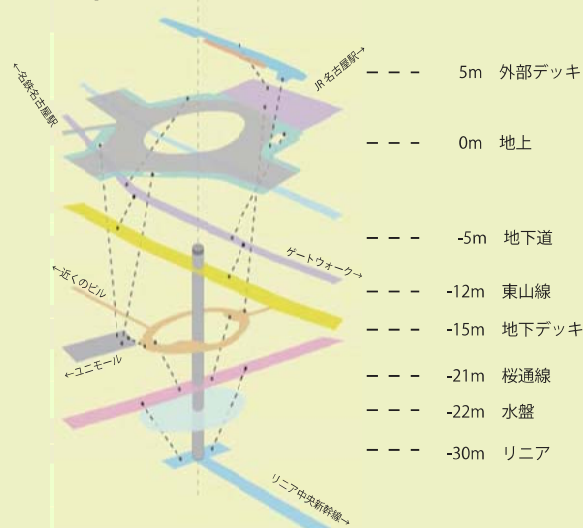
名古屋駅には交通が集中して、各種乗り換えが複雑だ。それらの交通を一目で見渡せ、自分の行く先を認識できるような広場が必要である。リニアの駅で降車した人々は地下道を通り、名古屋の全ての交通が立体的に可視化された『ターミナルスクエア』に迎えられ。名古屋の中心にあいた穴(Hole)は、名古屋の玄関口(Hall)になる。

Diagram



地下では、様々な交通が立体的に交差し、一方、地上でも歩行者と車両で混雑している。地上をラウンドアバウトとして、車両の交通機能、乗降場としての機能を優先させる。歩行者はどこに行けばよいかわかる地下空間を自由に移動して目的地へと向かう。

Map



Sceans



友人と名古屋駅で待ち合わせ。JRのデッキから眺めていると東山線のホームに友人が降りてきて、こっちに手を振っている。



久しぶりに名古屋で買い物をした。帰りは名鉄だから、このまま地下を通っていくのがよさそうだな。



リニアに乗って名古屋にきた。さっきまで、長い間地下にいたから太陽がまぶしい。さて、名古屋城に行くには・・・。



たまの休みに子供たちと名古屋駅にきた。お昼時なので地下街で店を探していたらふいに外に出た。下の屋台からいい匂いがする。今日のお昼は決まったな。

使う人が変えていく、訪れるたびに変わっている、新しい駅前空間

名古屋駅地区街づくり協議会

<都市らしさとは>

東京駅、博多駅では、駅前広場再整備後の新たな風景が、街に馴染んで都市の顔となり、結果として“その都市らしさ”として認知され始めている。“らしさ”とは、はぐくみ育て、時間とともに根付かせることで生み出されるものとする。名古屋駅が大きく変革する今こそ過去ではなく未来に向けて、**ゼロから作り出す“新たな名古屋らしさ”をはぐくみ育てていくことが必要である。**

<名古屋駅の特徴と、求められること>

名古屋駅はモノづくり産業の拠点である中部圏の顔であり、名古屋都心へ賑わいを波及するまちなか回遊の始点でもある。また、駅前空間で求められる数多くの機能や活動への対応や、将来の環境変化に対し柔軟にスマートに対応できる広場づくりが期待される。

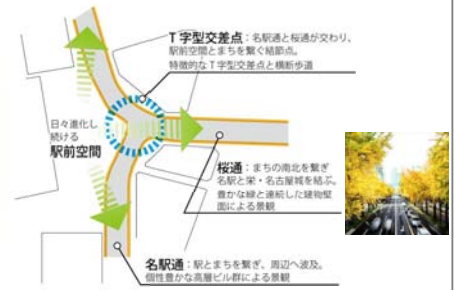
これまで名古屋駅は、ロータリー交差点とモニュメントが“名古屋の顔”として認知されていた。再整備後は、「T字型の交差点」、「駅前の広場空間」、「広場から3方向に延びる道路景観」といった名古屋独自のまちの骨格が形成される。

次世代技術の活用による
「可変性」と「ワクワク」
を備えた、最先端の駅前
空間づくりに挑戦

「駅前」から広がる空間
全体で「名古屋らしさ」
を感じられる場所づくり

<THIS IS NAGOYA を感じる新たな名古屋らしさ>

使う人が変えていく、訪れるたびに変わっている、進化し続ける活動とともに、名古屋のまちの風景を見通す体験



日々進化し続ける活動を生み出す

✚名古屋独自のまちの骨格を魅せる ----->

名古屋駅、桜通、T字型交差点は、歩道舗装や植栽の高質化、道路工作物のデザインの統一、路上駐車場の見直しなどに取組み、美しく魅力的な景観づくりとまちなかへ人々を誘う仕掛けづくりを行う必要がある。

<変化を生み出す空間のイメージ>

時間・季節・活動に応じて変化を生み出す4つのポイント

【挑戦する】



AI、新モビリティ、VR・AR、ドローン、3Dホログラムなど新たな技術に挑戦する

【動く】



自動運転技術を用いて植栽、ベンチ、パソル等を自在に動かし、可変性を実現する

【兼ねる】



階段擁壁や交番等の壁、給排気塔等にベンチや案内板等を設置し工作物による制約の少ない広場とする

【備える】

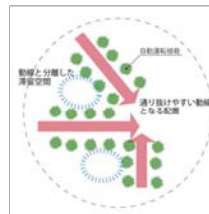


Wi-Fi、分電盤、給排水施設、支柱穴、広場のセミフラット化などにより、多様な使われ方に対応する

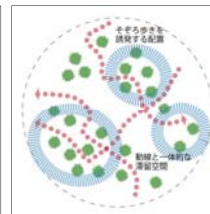
(変化する施設配置)

- 植栽やベンチ等を自由に動かすことで、オンピーク、オフピーク、イベント時など、活動内容に応じて、最適な施設配置に変化する。
- ベンチにAIを組み込み、自動で日影に移動する、人が座りやすい位置を学習するなど、ICT技術を活用し、利用者にとって快適な滞留・憩い空間を提供する。

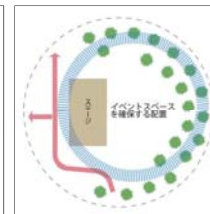
【オンピーク】



【オフピーク】



【イベント】



(様々な利活用)

- 可変性により日常的に利用する人の使いやすさと、賑わいを生み出すイベント利用を両立させ、様々な活動を受け入れ、来るたびに新しい出会いと発見を提供する。

【日常】くつろぐ、居心地がよい、サードプレイス。



【非日常】交流、出会い、発見、体験、感動。



コンセプト：映像シンクロによる全体で劇場のような駅前広場

1 名古屋を象徴する大通の軸

- 駅前広場中央は、大都市にふさわしい風格ある広場、まっすぐに軸を伸ばし、歓迎イベントを演出します。
- ドラゴンズ、グランパスエイトが優勝した時は、パレード出発点となります。
- 桜通の先端は、三角形のスクランブル交差点。毎朝のTVニュースで名古屋駅前を印象づけます。



2 床埋設のLEDビジョン

- 駅前広場中央では、床に埋設された、連続した大型LEDビジョンで、自然の波、山の風景、未来宇宙など演出します。
- 床に設置されたビジョンの上では、スポーツイベント、祭では床の演出でさらに盛り上げます。



3 連動する映像でおもてなし

- 今後協議により、周辺のビル群に大型ビジョンやプロジェクションを設置し、賑やかな映像で来訪者を印象づけます。
- 非常時災害時には、適切な情報を提供する、メッセージ映像になります。



4 駅前お祭り広場がスマホでシンクロ

- 音の仕掛け、スマホ・タブレットでシンクロする映像。駅前コンサート、イベント、祭で駅前が一体に。



5 ガラスに浮かぶ金シャチ

- 地下につながる階段のシェルターは、This is NAGOYAのしやちほこをイメージしたガラスのオブジェ。夜、薄っすらと「金のシャチホコ」が浮かびあがります。
- ガラスオブジェに設置されたモニターには、名古屋城、三英傑、名古屋の歴史、芸能、自然、ものづくりなど、様々なコンテンツが映しだされます。



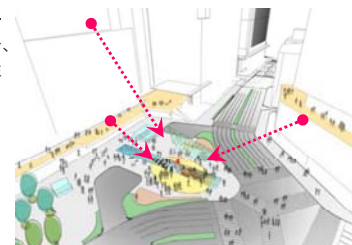
6 地域産材の木質フレームとウッドデッキ

- ガラスシェルターの構造フレームは木質を感じるものとします。木製のデッキでは、日常ではくつろぎの場、イベントでは、ステージ機能となります。
- 地域産材は森林トラストによる市民からの寄付を募ります。



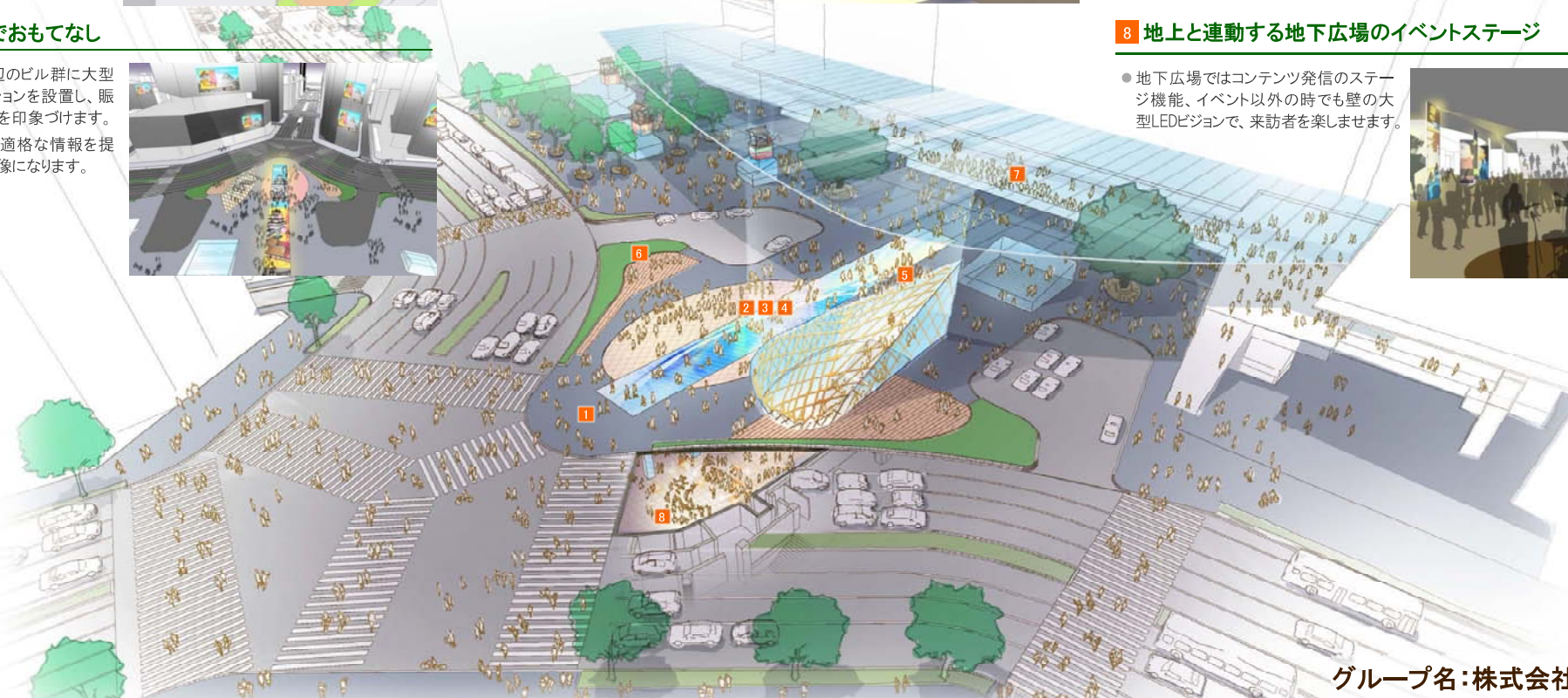
7 ビル群全体で地下・地上デッキまで一体感

- 階段とつながる地下広場でのパフォーマンスが、駅前広場中央、ウッドデッキ、階段、ペDESTリアンデッキ、ビルの屋上庭園、バルコニーまで映像を通じ、一体感をつくりだします。



8 地上と連動する地下広場のイベントステージ

- 地下広場ではコンテンツ発信のステージ機能、イベント以外の時でも壁の大型LEDビジョンで、来訪者を楽しませます。



「T h i s i s N A G O Y A」

金のシャチホコ（金鯱）

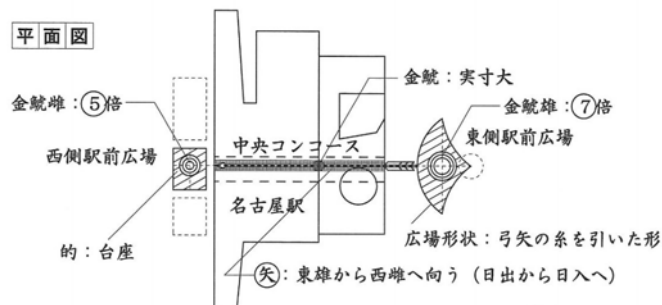
趣旨説明

名古屋の象徴は金鯱でありますが、ほぼ間近で見る機会がありません。そこで、同じ目線で見えるモニュメントとして、ご提案します。

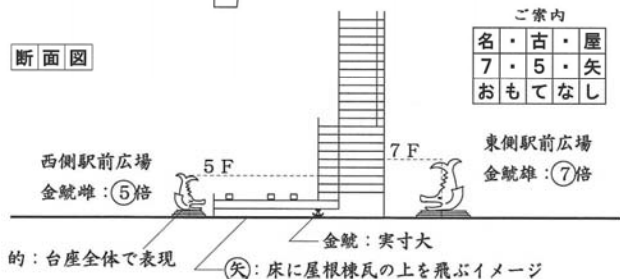
中央コンコースを屋根の棟に見立て、距離感で

- ・駅前広場東側：雄2.62x7（実寸7倍）
- ・駅前広場西側：雌2.58x5（実寸5倍）
- ・中央コンコース内：雄から雌へ1本のライン引きで矢と見立て、これにて7・5・矢の確立一連の流れにて、これぞ名古屋を主張します！

平面図



断面図



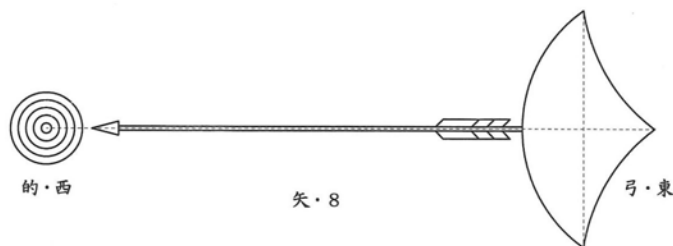
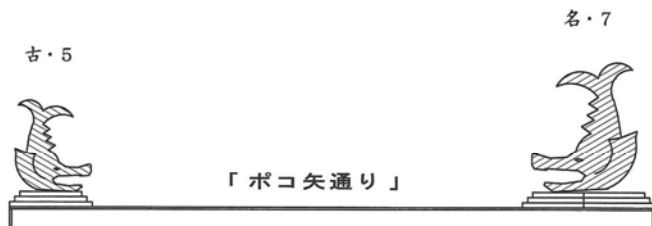
補足説明

中央コンコース内の実寸大金鯱の口には、左右大ききの違うエビフライを喰えさせて、東・西広場の金鯱を暗示するものとし、エビフライも笑

ようこそ名古屋⁷

おもてなし⁵

シャチポコ大歓迎⁸



感動と印象大シャチポコ

名駅前は大名古屋ビルディングとシャチポコ

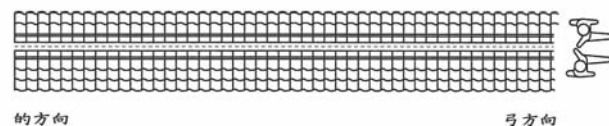
秘めた願い情報

瓦総枚数は、758x5=3790とは、みな90才の願いを込めています。

「ポコ矢通り」説明

まず、矢の太さは20~30cm程度とし、棟瓦中は矢の太さの2~3倍程度とし、瓦は流れ中は25cm程度で左右で3・2の5枚とし瓦全長は275x758=208.45mで、硬質塩ビタイルの柄入れ名古屋市特注品（瓦いぶし銀・矢木材色）として希望尚、棟瓦全長寸法正確に把握できてないため全長を「758」で割付寸法とします。必ず瓦が何枚あるか気になる人はいるはずですので、数えたら「758」と感動がいいと思いますので、公表はなしとして下さい。名駅の楽しみ道（エンジョイ・ロード）として期待し、名称は「ポコ矢通り」とします。中は二人が並んで歩行可能な1.5m程度名駅の話題の一つとして、大ポコ期待しますコンコース内の「優先歩行帯」の位置付け

「ポコ矢通り」



屋根から落下せず渡り切ったらの伝説に期待
よろしく願い申し上げます。

この計画コンセプトは、

床に屋根の棟だから、シャチホコが間近に！

山川隆司

“名古屋の顔づくり” アイデア：コンセプト「三英傑から未来へ」

発案者：清水 克宏

○象徴的な空間形成のコンセプト

名古屋の街には、「顔」がないとよくいわれる。しかし、名古屋には、広く知られた「顔」がある。

名古屋の顔と言えば、(現代なら河村市長かもしれないけれども、)まず、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康という三英傑の顔が浮かぶ。三英傑は、名古屋周辺で、かすかすの労苦を味わいながら多感な少年時代を過ごし、天下統一に向け羽ばたいていった。三英傑の熱き人生は、現代の我々を鼓舞してくれ、近年は中国での「徳川家康」ブームなど、アジアを中心によく知られるようになっていく。英傑の名を知らない海外の旅行者にも、武将の姿は、日本らしい姿として目に映るだろう。この三英傑を広場に設置することが、名古屋の街の顔づくりに、最もふさわしい。

そして、これを過去の偉人の像としてではなく、以下のような配置にし、未来に向けた象徴的な意味を持たせることで、名古屋がスーパーメガリージョンの中心地であることを、言葉なくして宣言する。

1. 構 想

(1) 東側エリア

構造の許す限り巨大な金色の三英傑像を以下の方向に向けて設置する—【英傑としてのシンボリックな像】
(配置方向は、図1参照、配置方法の象徴するものは、図2参照)

- ①織田信長像：北向き（名駅通り北側向き）に設置
理由：清州城・岐阜城の方角であり、「昇竜道」の流れも象徴
- ②豊臣秀吉像：西向き（名古屋駅正面向き）に設置
理由：出生地中村、伏見城・大阪城の方角であり、大阪へのリニア中央新幹線の流れも象徴
- ③徳川家康像：東向き（桜通り向き）に設置
理由：出生地岡崎、浜松城・駿府城・江戸城の方角であり、リニア中央新幹線の流れも象徴

(2) 西側エリア

誰もが触れられるような位置に、等身大の三英傑の少年時代の像を①と同方向で設置する

—【希望や不安を抱えた等身大の少年像】

理由：少年像から英傑像に向けた駅を貫く動線が、希望を象徴（図3参照）

図1：三英傑像の向く方向

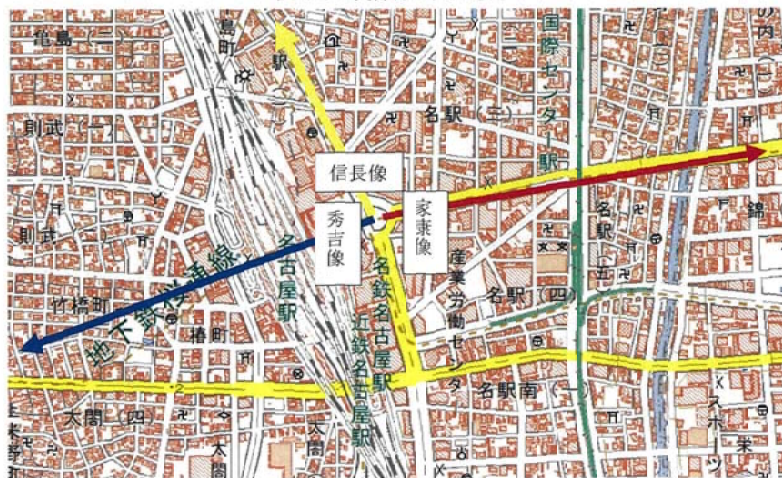


図2：三英傑像の向く方向の象徴するもの

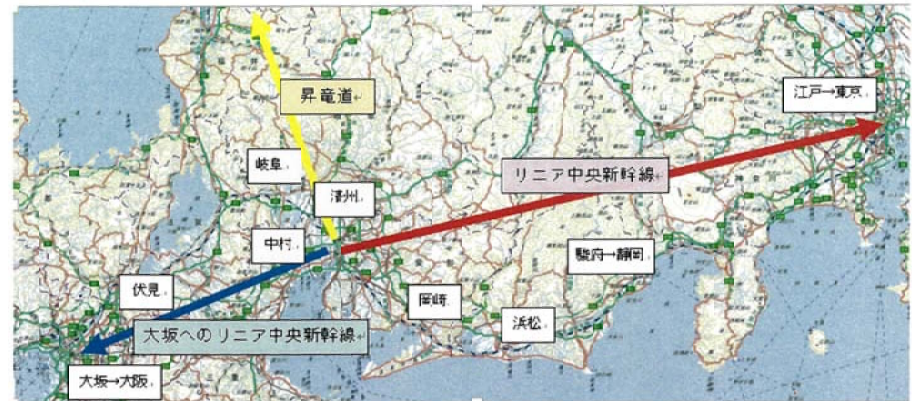
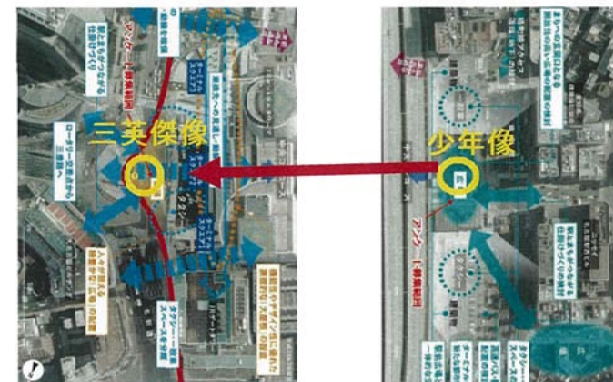


図3：東側エリアと西側エリアの相関性



2. 効 果

(1) 東側エリアに英傑のシンボリックな像を設置する効果

東側エリアは、県都名古屋の正面玄関としての機能を持ち、海外からのお客様が空港を経て最初に立つ場所でもある。ここに、名古屋、愛知、そして日本の「顔」となる三英傑のシンボリックな像を置くことで、名古屋に、愛知に、そして日本にきたことを一瞬で実感してもらうとともに、スーパーメガリージョンの中心地としての名古屋の位置付けも理解してもらうことができる。名古屋のシンボルカラー金色の巨大な像とすることで、SNSなどを通じ、世界に発信され、知名度向上につなげられるようにしたい。

(2) 西側エリアに等身大の少年像を設置する効果

東側をハレ（晴れ）のエリアとすれば、西側は日常的なケ（曇）のエリアということができる。ここに、自分たちと変わらない等身大の少年像を置くことで、若々しく親密な雰囲気をもたらすとともに、誰もが夢を持って世界に羽ばたけるというメッセージを発信することができる。少年像と並んで撮影してもらうことで、広場に親しんでもらうとともに、SNSなどでの発信も期待できる。できれば、愛知に関わりが深く、若者の支持があり、世界的に知名度の高い奈良美智さんに像の制作をお願いできると理想的。

(3) 北・西・東向きに像を設置する効果

東側エリアが従来のロータリー交差点から三差路になると、三英傑像には親和性がある。

1. (1)のような象徴的な意味合いのほかにも、①リニア中央新幹線・東海道本線という鉄道の流れ、②名古屋駅・桜通り・名駅通りという道(人)の流れと、三英傑の像の向く方向を重ね合わせることができる。

以上

訪れる人に 様々な“顔”を見せる名古屋。
あらゆる人々に“門戸”を開く名古屋。
誰にも“居心地の良さ”を感じさせる
ハード・ソフト・ヒューマンのインテグレートされた迎え方。
“これが名古屋”スタイル。

駅前東広場“ゲート・スクエア”整備

* 名称「ゲート・スクエア」は“ゲート”の多用を避けるならば、代替案は「大木戸広場」。

▽ 整備の基本的考え方

(イメージ／インフォメーション／インプレッション ▶ ブランディング)

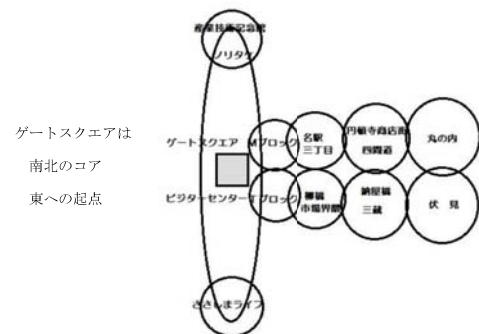
イメージは情報によってもたらされ、訪れた人の印象が新たなイメージをつくる。
イメージが積み重なりブランドとなる。その印象が、ここでつくられる。

(象徴的モニュメント／ベネフィット)

〈名古屋の玄関〉〈世界へのゲートウェイ〉〈未来への扉〉を象徴する造形とともに、
ビジターの行動に沿ったベネフィットをもたらし施設、サービスが求められる。

(駅前東エリアのコア／他エリアへのブリッジ)

名古屋への入り口、他のエリアへのつなぎ役であり、駅前東エリアのコアとして推進的、
補完的役割を有する。



▽ 整備の具体的なアイデア

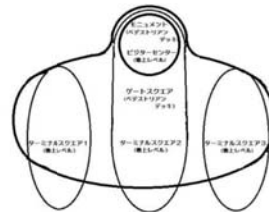
- ① ベネフィット（便益、CS）とビジュアル（景観、空間）により印象を高める
- ② ビジターのベネフィットはロジスティックスとアメニティ両面から高める
ロジスティックス：ビジターの行動を支援する設備、サービスの提供
アメニティ：ビジターの居心地、快適さ、楽しさを増す空間、サービスの提供
- ③ ベネフィットを高めるための、アイデア3点
人の流れる空間と分けて、人が留まる、人を留まらせる空間を設ける
▶ 多様なサービスを提供するビジターセンターの設置
▶ ペDESTリアンデッキ上に多目的スペースの確保
▶ ハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェアの統合的な運営
- ④ ビジュアル（モニュメント・スペース）のロジックとアート
歴史的な背景を踏まえ、かつ景観と調和した造形及びその空間の創造的利用

* ビジター：アーバンツーリズムにおける広義の観光客。ビジネス客も含まれる。

ベネフィット（ロジスティックス・アメニティ）のフォルム

＜構造のアウトライン＞

ペDESTリアンデッキを拡張し、
歩車分離した2層の空間をつくる。
ターミナルスクエアから東に延び
る中央部分をゲートスクエアとし、
地上にはビジターセンター、ペデ
ストリアンデッキにはモニュメント
を主体とした多目的スペース。



多様なサービスを提供するビジターセンター

情報収集、予約手配、移動、乗換、滞在、決済、待つ、といったビジターの行動が円滑に、快適に、運べるような受入環境としてビジターセンターはロジスティックスの要となる。【インフォメーションセンター】機能のみならず、待ち合わせ、憩いの【ラウンジ】、ビジネス用機器、サービスが提供できる【ビジネスコンビニ】、ブース型ワークスペース、変身ロッカーなどの【プレッブルーム】、モニター、QRコードによる中部圏の【観光情報コーナー】、ホスピタリティ活動となる【ボランティアガイドの拠点】、“コネクテッド”“シェアード”というトレンドに従えば、フリーWi-Fi、VR、ARによる行動アシスタント、Ma a S拠点など、様々なサービスが考えられる。

ペDESTリアンデッキ上の多目的スペース

移動する、留まるを捌く（ロジスティックス）、留まり、憩う、楽しむ（アメニティ）のための空間づくり。熱や音を和らげるウッドデッキと緑、地上の雑踏から隔離され、高層ビルに囲まれながらも、空を仰ぎ見ることができる空間。待ち合わせスポットにテイクアウェイの日本茶・コーヒースタンド。その空間に変化を持たせる様々な使い方もある。四季折々の花、ミニコンサート、ストリートパフォーマンス、アート系マーケット、観光キャンペーン、新製品PR、MICE併催イベントなど、利用ニーズは多彩にある。

ハード・ソフト・ヒューマンのインテグレートサポート

受入接遇策としてのインフラは、構造、施設などのハードに加え、ソフト、ヒューマンからのアプローチとそれらの統合によって、より効果的なものとなる。例えば、案内誘導では、過剰な表示案内の整理・制限と統一、カラーユニバーサルデザインやパブリックデザインの理念、デジタルサイネージと双方向通信による仮想案内所、名駅エリア限定のマップ、AR、ナビを提供するスマホアプリ（例：なごや歴史探検）、ビジネス客を対象とした立ち寄り観光やプレジャーのコース提供等々。また、駅前の広範囲なエリアでのホスピタリティ産業従事者、企業勤務者を巻き込んだインターナショナルマーケティングはウェブ上のコミュニティ形成と地域情報の提供で、地元愛の創出とホスピタリティ能力を高める。（この項は、別途提案したい）

ビジュアル（モニュメント・スペース）のロジックとアート

＜ビジュアルの拠り所＞

名古屋の街の成り立ちを遡れば、築城と城下町の建設。城の象徴としての石垣を基礎（1階の外壁）に、城下町への街道筋入口である大木戸をモニュメントとして表現。石垣は、名古屋城に多く見られる「切込接の乱積」をデザイン化。大木戸は、猿蓑庵が描いた橋町大木戸を模した木造建築。大木戸に横木はなく、かつ道路が見通せるよう、門扉の間を十分に開ける。モニュメント周辺は人が集う、寛ぐ、あるいはイベント開催のための十分なスペースを確保する。その空間を「ゲート・スクエア」と称する。

＜モニュメントの意味＞

これまでのモニュメントのテーマ青年の像―「青年都市」、飛翔―「発信する都市」から「開かれた都市」へと新たにする。モニュメントとしての門は多く見られるところで、“名古屋の玄関”“世界へのゲートウェイ”“未来への扉”であるゲートには、全てのビジターへのメッセージとして「訪れる人に安らぎを。去り行く人に幸せを」（ローテンプルクのジュピタール門銘文）というホスピタリティの思いを託したい。

ウッドデッキ、木造モニュメントという“木”へのこだわりは、名古屋の産業史「木の系譜」に拠る。家康による築城とともに残った木工職人、義直へ与えられた木曾の山から木材の集散地へ、木を製品素材として、時計、鉄道車両、自動車、航空機へと今日の産業につながる“木”の果たした役割を顕わしたい。

＜モニュメントの景観＞

名古屋駅が竣工した昭和12年、アクセス道路としての桜通りとともに整備された「イチョウ並木」は、先へ延びる道路、緑豊かな都市環境、街への広がりを感じさせる景観として、イメージアビリティを高める要素である。ゲート・スクエアはそれを眺める場であり、モニュメントは修景物として、立ち並ぶビルの縦のラインに沿った調和したデザインが図られる。モニュメントは街の景色のフレームであり、四季、祭り、イベントに合わせた装飾を加えることで、変化を持たせることができる。あるいは、門柱の間にステージを設けたり、透過型スクリーン、ミストスクリーンを情報メディア、PR媒体として使ったりすることも考えられる。固定的でなく、新たな技術の導入が可能な道具として、この空間を考えたい。



提案者氏名：鈴木 壽

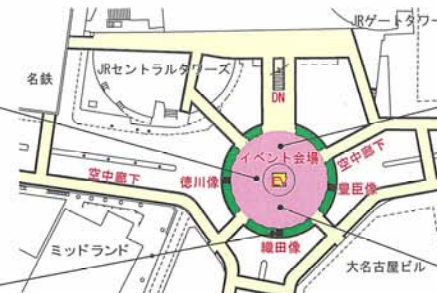
- ・中央大型エレベーターより山車等を昇降し、山車からくりや盆踊り等、開催イベント(広告収益可)をする。
- ・中央イベント広場周囲に三英傑像を設置し、日本代表する愛知出身の織田・豊臣・徳川像を設置し歴史文化の高さを表現する。
- ・既設名駅待ち合わせホール中央にあるエスカレーター4基の延長上に3階への新設エスカレーター設置しイベント会場へ直接上れるようにする。
- ・駅前ビル群を空中廊下(3Fレベル)で全てつなぎ、どのビルにもスムーズに移動できるようにする。



山車からくり等披露



三英傑像設置



3階平面図



自動車等のブランド発表会(広告収益可)



各種イベント・盆踊り(広告収益可)

3階フロア イメージ(イベント・空中廊下エリア)

- ・東広場の東側にリニモ(北回り、南回り)の発着場設置。
- ・広場北エリアは観光バスの乗車スペースと待ち合わせ場所。
- ・広場南エリアはタクシー(待機場所確保)、一般車の乗車スペース。
- ・広場中央は待ち合わせ場所、中央エレベーター昇降スペース周りにLED画面設置し、文化等(広告収益可)を紹介する。
- ・2階のレベルは既設の立派なステージ(駅前イルミネーション場所)に合わせる。



タクシー乗車(待機場所確保)・一般車乗車



リニモ南回り乗降



2階平面図



リニモ北回り乗降



観光バス乗車(待機場所確保)

2階フロア イメージ(車の乗車・リニモ発着エリア)

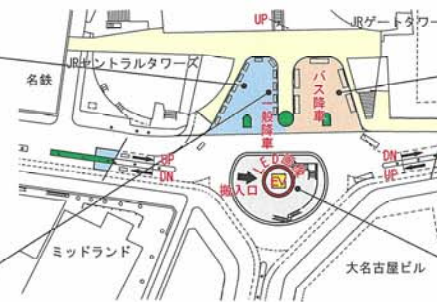
- ・広場北エリアは観光バスの降車スペース。
- ・広場南エリアはタクシー、一般車の降車スペース。
- ・広場中央のエレベーター昇降スペース周りにLED画面設置し文化等(広告収益可)を紹介する。
- ・イベント用エレベーター搬入路も確保。



タクシー降車



一般車降車



1階平面図

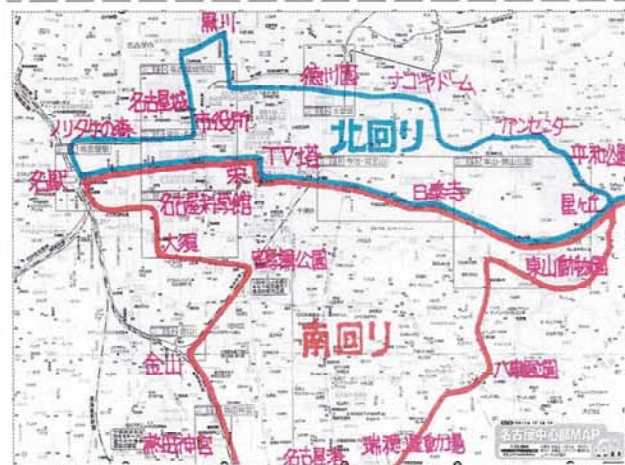


LED画面(観光案内・広報・広告)



観光バス降車

1階フロア イメージ(車の降車エリア)



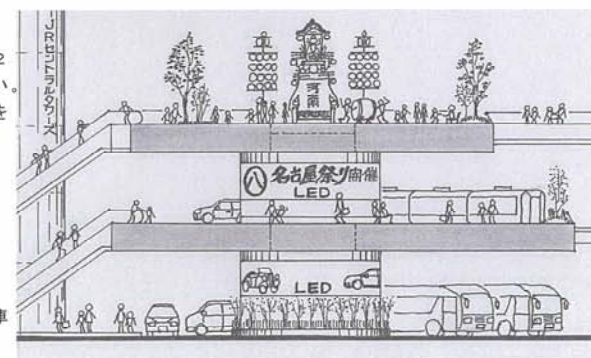
市内観光リニモ(北回り・南回り)経路図

コンセプト

愛知県は歴史的にも三英傑(織田・豊臣・徳川)が居て、充分な観光資源を持っている。名古屋市内だけでも数々の歴史文化施設があり、リニモ(愛知万博採用したリニアで北回りと南回りの2系統)を市内まで延長して各所観光し、名駅東広場で発着させるものでリニモ利用しなければもったいない。この計画は、愛知がものづくりの街に加え、三英傑の観光資源を生かして更に愛知を発展させ、二刀流を実現させるものである。

東広場の説明

- ・東広場を立体的に空間利用して、車の降車(1階)と乗車(2階)を分離して混雑解消も狙う必要がある。
- ・東広場の東側2階に観光重視のリニモを発着させて、高い位置から市内観光が出来るようにする。
- ・中、長距離観光バスを発着させ観光客の利便性を上げ、愛知から観光範囲を広げハブ的な考えとする。
- ・歴史文化を全面に打ち出し、いつも文化のイベント開催される3階スペースを確保する。
- ・名古屋市内16区と愛知県各市などを年間割り当て日程による各地特徴的なイベント開催(例:各地域の山車展示でからくり披露することで地域を盛り上げる)を常設とし観光客に名古屋文化に近い存在とする。
- ・東広場中央に山車が昇降できる大型エレベーターと非常階段設置する。
- ・駅前ビル群を空中廊下(3Fレベル)で全てつなぐことで、信号待ちすることなく横移動がスムーズになり、ショッピングがしやすく更に、にぎやかになる。



断面図イメージ



建築設計監理 早川設計

愛知県知事登録(い)第9599号
一級建築士 登録第215618号

早川延幸

製図		図面名称	図番
製図	校閲	工事名称 名古屋の顔づくり(名駅東エリア)	縮尺
		図面名称 コンセプト・イメージ図と説明文	図番

東側エリ了

初代の金シャチ
慶長大判1940枚の輝きを
忠実に再現

雨を防げる屋根

一段低い屋根

ケースに入れたい

3m以上
和風かまど
高さ

・義直、宗春
・空襲で落城
・金シャチの役割
・名屋城の役割

・ウィーン展のこと
・金(材料+屋)
・サイズ
・数庫

座るスペース
十分確保

夏は汗かか
涼しい

コンセプト

なぜ、「金のしゃちほこ」にしたいのか？

- ・名古屋のシンボルと言えば、真っ先に思い浮かぶのは金のしゃちほこである。
- ・名古屋人気質といえは派手好き。ならば本当の派手さ・輝きを取り戻してみようという考えから。

このアイデアに至った理由

- ・「天下さまをまかなわぬものは金のしゃちほこ雨ざらし〜♪」
これは名妓連の伝統芸「金の鯨」という歌である。
この歌は東海道を行き来する旅人が、豪華な金のしゃちほこを雨ざらしにしている尾張藩のご威光に感服して歌ったといわれています。
- ・初代の金シャチは、慶長大判1940枚を使って作り上げた。その輝きは当時の熱田湊から見ても輝いて見えたという。
- ・豪華な金シャチは想像を絶するほどの輝きだったのではないだろうか？
- ・ところが、藩の財政難から3度にわたる改鑄で金の質が落ち、輝きを失っていきました。
- ・築城時につけられた輝きとはいかなるものだったのか？忠実に再現した金シャチを見てみたい、と思いました。
- ・名古屋の玄関口（駅前）に煌びやかなものを置くのは、風水的にも良い「気」が入ってきます。
- ・また、本物復元された名古屋城の観光にもつながられる。名古屋城は名古屋人の誇りです。

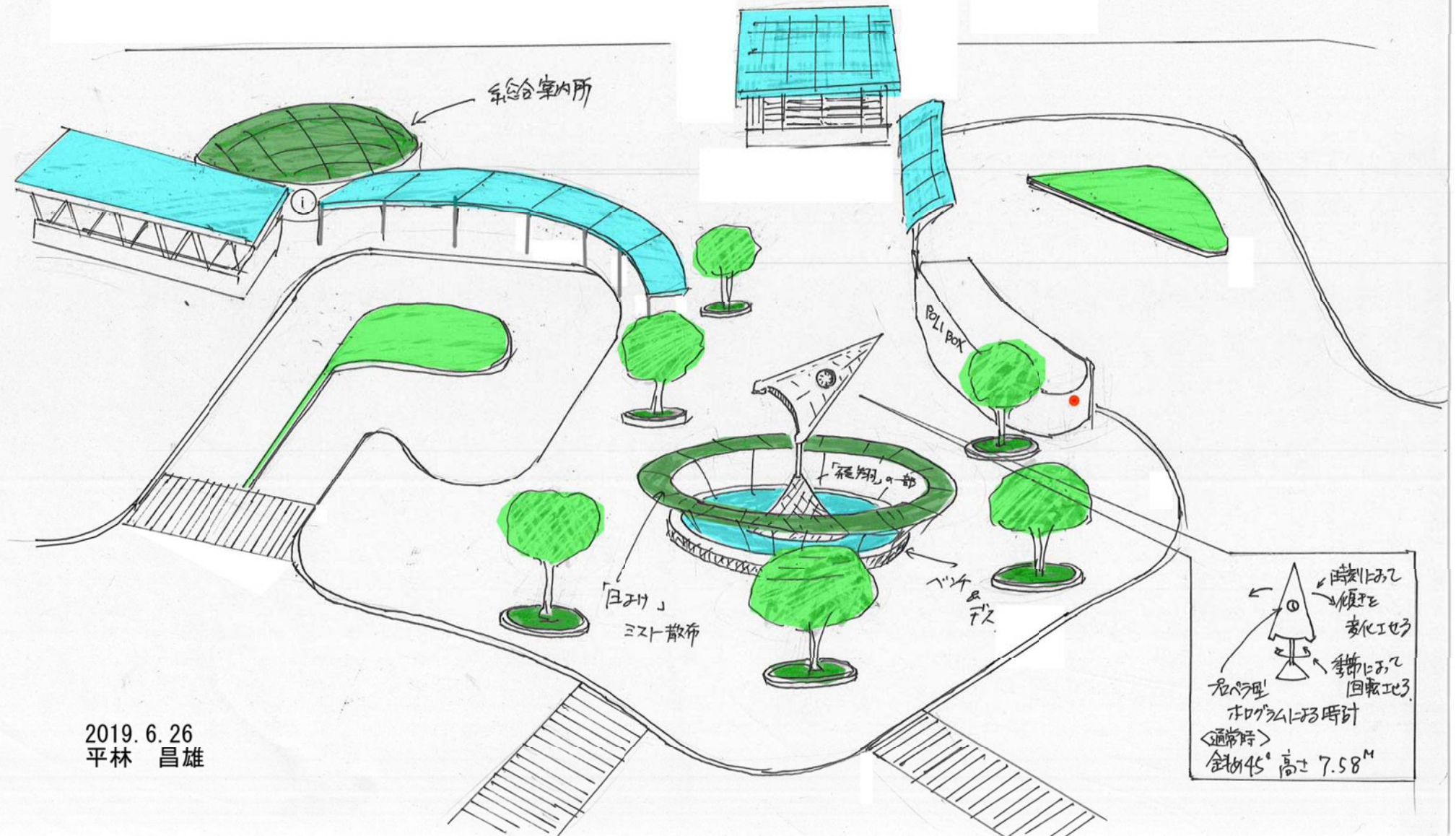
金シャチにするにあたって大切なポイント

- ・初代の金シャチの輝きを技術を駆使して再現する（初代はメスのほうが大きかったようです）
- ・できればケースに入れず、雨ざらしにする。
- ・現在もレプリカはあるが、駅前の金シャチとはとにかく輝きと忠実な再現を重視する。
- ・江戸時代の金シャチについての紹介や、ウィーンの万国博覧会に出品されたことなど説明する案内板を設置する。
- ・子どもが見ても驚く展示になるか検討する。

名古屋
常設：幼、小、中高、各学校
(教台置く) 優秀作品を展示 (絵、彫刻など)
地域の活動における作品も

〈名古屋駅東口シンボル〉（案）

- ・ 航空宇宙産業を始めとする先端技術産業愛知・中京大都市圏の玄関口をイメージ
- ・ 近未来の宇宙往還機（SST）や、当地産業の礎となった基礎のヒノキ、愛知の「A」をモチーフとした
- ・ 待ち合わせや、ちょっとした打合せにも使えるデスクやベンチを周囲に配し、テントやミスト等を備える



2019. 6. 26
平林 昌雄

「THIS is NAGOYA」について

表題について…（西側エリア）

駅前の広場は、よく何も無い広場、あるいは植栽が一部にある広い空間となっていることが多いと思います。うたい文句が「皆が集う憩いの広場」というような、コンセプトとなっています。しかし、ここ数年真夏でなくても「熱中症」等が発生しています。このような広場では、熱中症の発生源となる恐れがあります。

熱中症の発生源とならないためには、多少見栄えが悪くてもルーフなど日射しの遮蔽を考えなければなりません。また、雨天には雨具なしで過ごせる工夫が必要なのではと考えます。開閉式のルーフを設置。ところどころに植栽（大きな目の）を配置。広場の周囲には可動式の風除けなど設置。

従来名古屋のイメージと言うと、名古屋城（金の鯱）・三英傑・テレビ塔と思いますがあまりにも使われ過ぎ、陳腐化しています。やっぱり「それか！」の感は否めません。

名古屋らしさの演出には、2mくらいの立方体6個を間隔にあげ並び、各面にそれぞれ【N】【A】【G】【O】【Y】【A】のロゴを入れる（カラー）。その側面に、水族館・科学館・名古屋城・東山動植物園・リニア鉄道館・H2Aロケット等を描く。このキューブの逆から見ても N A G O Y A のロゴを入れる。

キューブを積み重ねたり、配列に工夫を凝らし、見るたびに（名古屋を訪れる毎に）変えるのも、変化に富んで良い。

それぞれの立方体には、LEDの照明を中に入れて前面を明るくする。電源はルーフ上に、ソーラーパネルを置く。施設は震災などの場合、一時的な退避所にも活用。広場の大きさが不明なのでもっと大きい場合は複数作り、一部に市民の退避場所案内の指令所とする。



「尾張名古屋は城ぞ持つ」

JRゲートタワー

JRセントラルタワー

イメージ画

JPタワー

駅西新ビル

駅西新ビル

JR名古屋

コンコース

タクシー

一般車

コンコース

タイル

光沢のある
黒い石板を使用し
高級感を演出

ビル・グランド

白色LED使用

木材を使用し地下に
重量をかけない

石量
(歩行者専用)

「尾張名古屋は城ぞ持つ」というフレーズがありますが、やはり名古屋は城をアピールすることこそが、今後の発展に繋がるのではないかと私は考えます。

今回の再開発の成功が不人気都市という汚名返上をする千載一遇のチャンスだと思います。都会感を感じさせる駅舎や広場も良いと思いますが、それならばより都会的な地点の多い東京や大阪に行けば良いと多くの人に思われるでしょう。今回は都会感で勝負をするのではなく、まさに「This is Nagoya」を感じさせることが重要であるかとも思います。

では、東京になくて名古屋にあるもの、名古屋が誇れた知名度のあるもの、となるとやはり城ではないでしょうか。名古屋の玄関口である名古屋駅、しかも新幹線から見えるスペースをインパクトのあるものにすれば、駅すらも観光資源となり得ると思います。あの、東京駅や金沢駅のように。

名古屋を日本一の城の街にできれば、どこかの街にもまねできない国内外から観光客が訪れる人気都市になるかと思う、今回のイメージ図を作成しました。

駅舎前石畳は駅舎と同じくらいの奥行き幅をとり、なるべく余裕のある幅をとることで壮大さや風格を出す。新駅ビル 2 棟の前は城風建物で覆う感じとし、極力石畳スペースを確保する。

そして、季節別の催し事を広場で行う。

(例) 春→桜と石畳のある場所「武将隊」が演出する

秋→NGY27 という若物女性アイドルグループを結成し踊りや歌を披露する(27 というのは 2027 年)

広場中央で行っても駅舎の南側と北側からそれぞれ人が通れるように入出口も設けるので可能とする。

また、夜間帯は毎日駅舎をライトアップで彩る。

【土の広場】

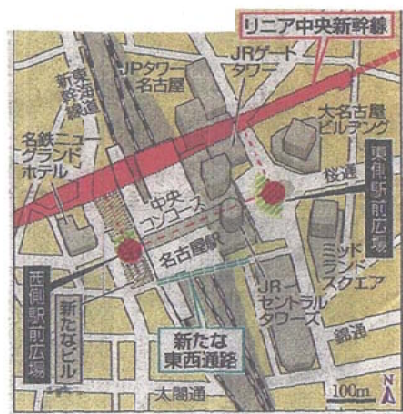
アイデア趣旨

- 海面がもう少し低かったころ、地面は世界（北はロシア・南は朝鮮半島）とつながっていた....。
- 世界とのつながりを、江戸・東京・鎌倉などでなく、京都・大阪でなく、NAGOYA（名古屋）から発信する。
- モニュメント飛翔は、高度成長期、未来への上昇を象徴した。

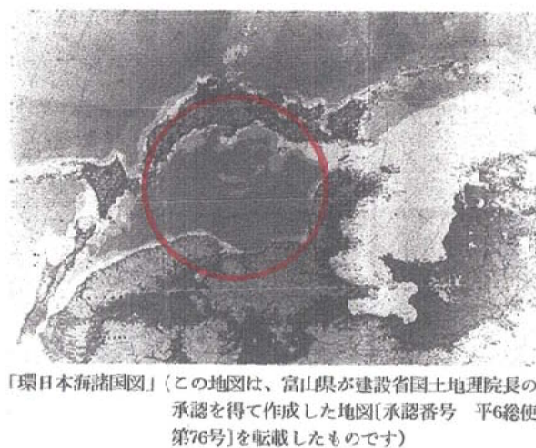
土の広場は

- ・自然との共生を象徴する
- ・足元を見つめる。自らの立つ位置を確かめる。
- ・地層（過去・歴史）との対話

- 土の広場は、JRツインタワー（阪田誠造さんら）と対をなす。
- 土の広場は、「This is NAGYA」である地下街のランドマーク・シンボルとなる。
- 歴史を見定める。ただ現在から未来を見るだけの未来デザインはフィクションにすぎません。

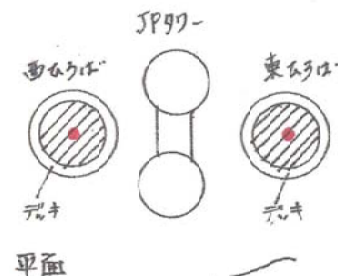


- 着想を得た本など
- ・宮崎駿「風の谷のナウシカ」全7巻
- ・網野善彦「歴史を考えるヒント」
- ・中沢新一「日本文学の大地」
- ・瀬戸本業発見学会（木が土を吸い大きくなる）



「環日本海諸国図」(この地図は、富山県が建設省国土地理院長の承認を得て作成した地図[承認番号 平6総使第76号]を転載したものです)

名古屋地下街の2つの中心

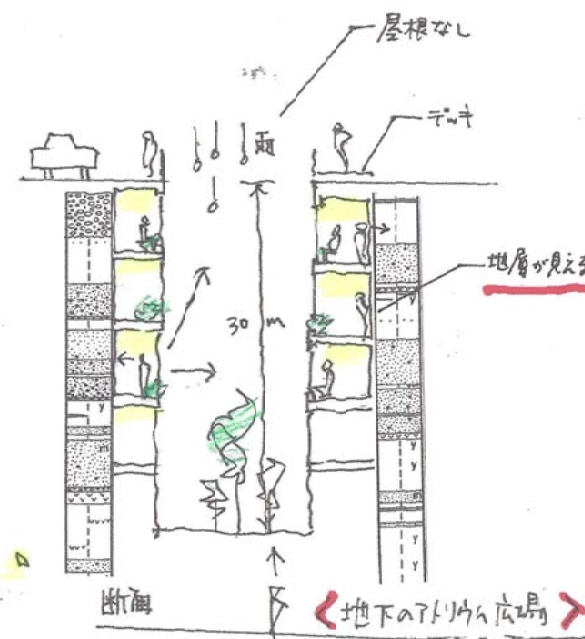
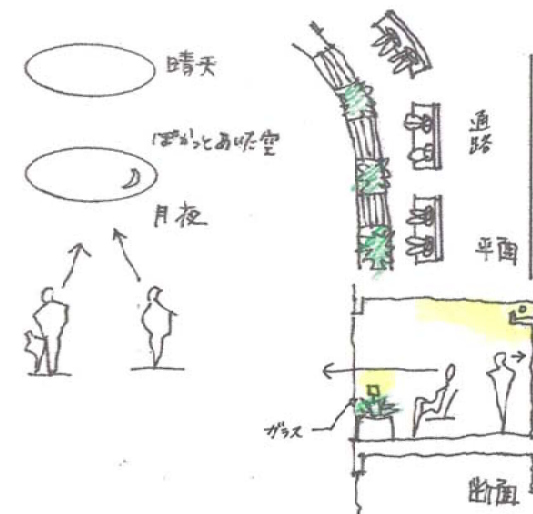
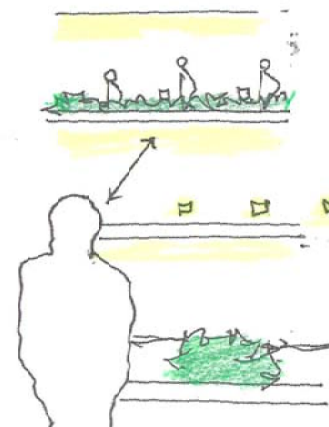


平面



イメージ図

バス図



リニア地下駅とつながる
円形地下空間広場

交差点側

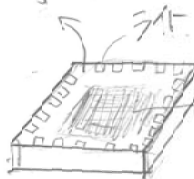
床

- ・インガを敷き適度にソーラーパネルを敷いていく。
- ・日が暮れるとソーラーパネルの中のライトが光る。

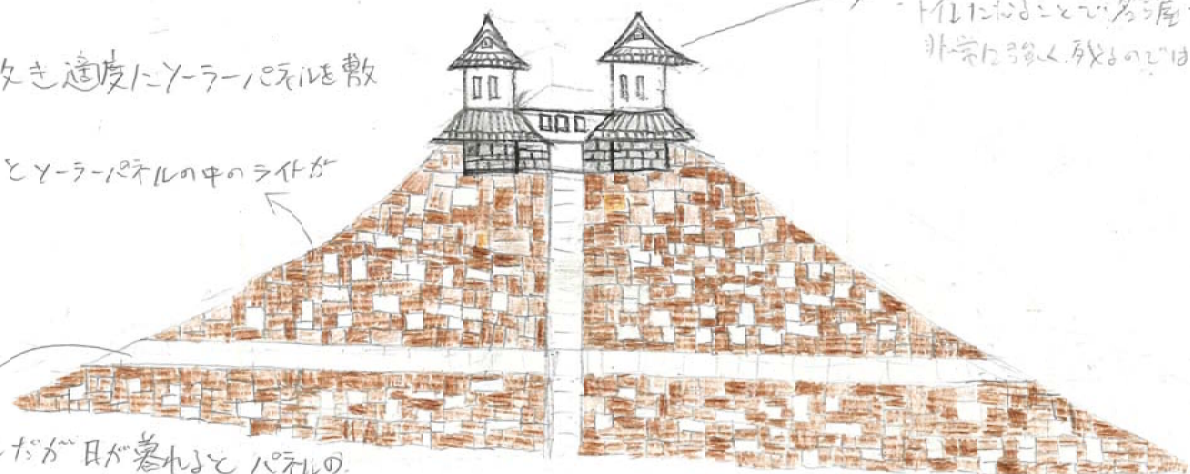
道

- ・日中は、ソーラーパネルだが日が暮れるとパネルの中のライトが光る。
- ・光り、季節や天気などのイベントごとに色が変わる。
- ・電気は、日中ソーラーパネルで溜め込んだ電気を活用。

透明の厚いフィルム

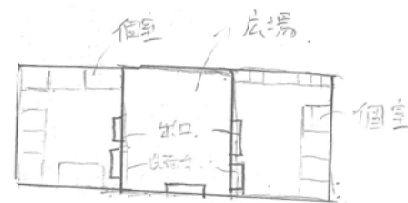


(ソーラーパネル)



トイレ

多機能トイレを出てすぐの目に入らないうちにトイレにはいることで多機能トイレというインパクトが非常に強く残るのではないかと考えた。



- ・必要に応じて、車いすの方や障がい者持たれている方も利用できるような多機能トイレを設置する。

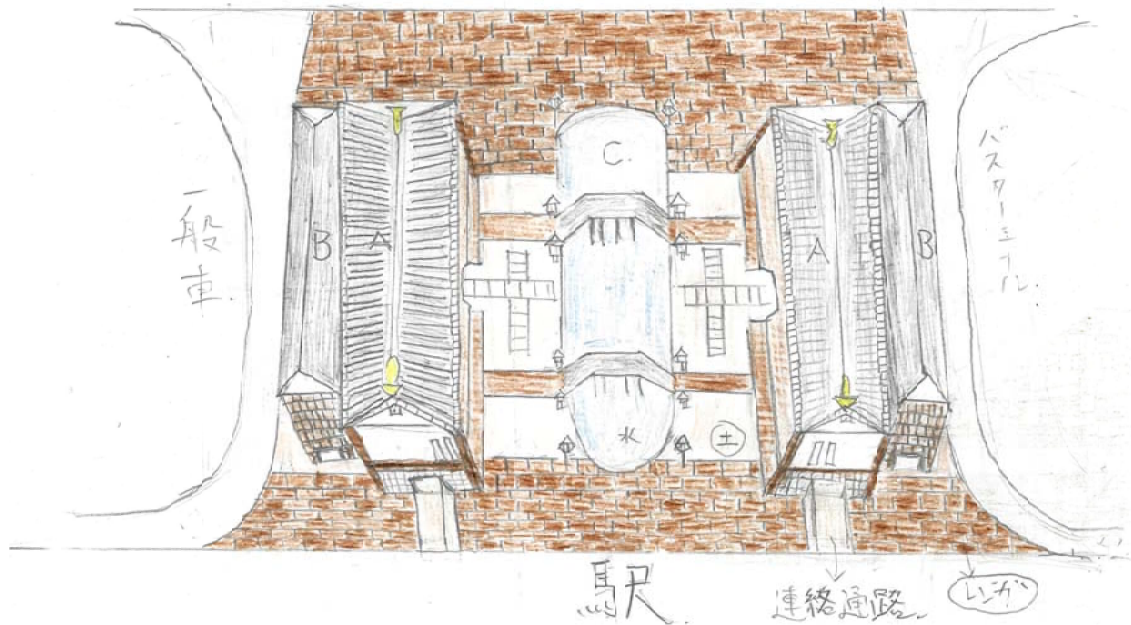
ターミナル、馬尺側

(和風のキレたトイレと両洋風のおかしな組み合わせによって海外からの方や県外からの方々にインパクトを与える。また日が暮れるとソーラーパネルから光が出て幻想的な光景になり、目にもインパクトを与える。

西側エリア

全体図

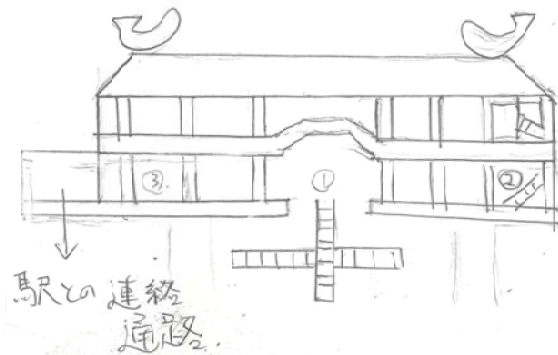
道路



西エリアに文脈をまとめる

- ・私たちが考えたコンセプトは、お洋折衷が知は、名古屋の山車や木造の建物などの伝統的な部分で洋は、レガや電灯などの部分で東の文化と組み合わせること。海外から来たり県外から来たりインパクトを与えることが目的である。

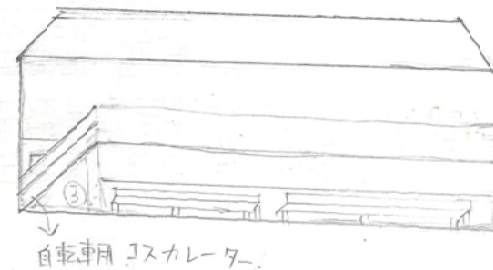
「THIS IS NAGOYA」を感じる。山車や木造の建物とレガという違う文化を入れていること。名古屋を新たに開拓していくことを原動力とした。



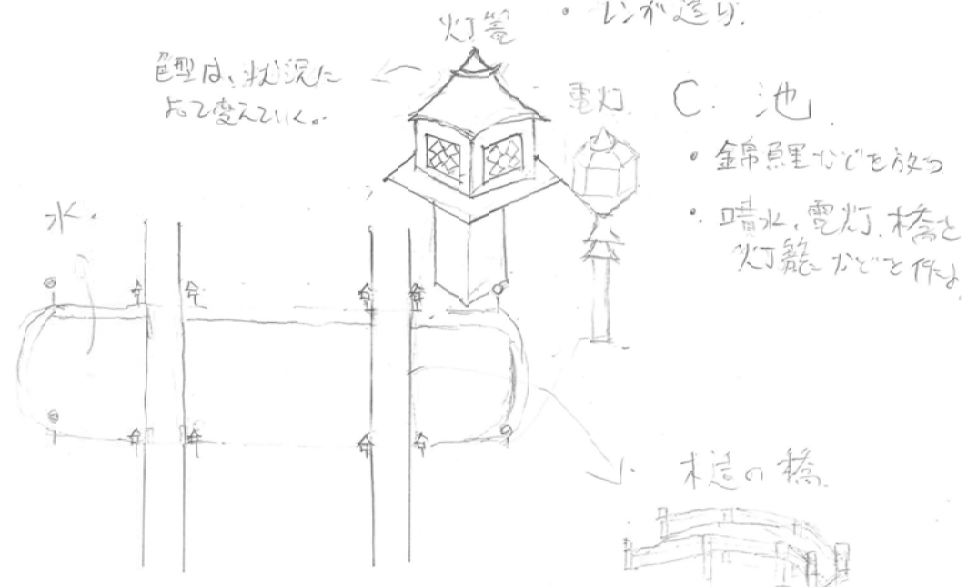
A お城風な建物

- ・建物の上にシャボコを乗せ、木造建築。
- ・①、②、③以外のスペースに店を入る。
- ・①は、山車や江戸時代のカラクリが入っており決まった時間に自動で出てきてレールの上を走り見せる人を楽しませる。
- ・②階段 ③Bに行く通路

B レガ造りの建物



- ・1階は、バスやタクシーなどの車を待つ待合室。
- ・2階は、自転車置き場もしくは、自転車の貸出し場など。
- ・③Aに行く通路。
- ・レガ造り。



コンセプト：世界の交わる大広場 名古屋

名古屋学院大学 現代社会学部 ^{やまが}山、^{ひらみ}田 優武

説明： 先づ 東山線中央改札階段設置予定の為 大きな建造物等は控え、地面に浮かぶ模様などで名古屋の顔を表現した。

1. 広場中央にある模様について： 元々この場所には「噴水」や「飛翔」といった象徴となるものがあつたが、見通しが悪くなってしまう。

又、階段の中ですれ以上大きな物を置くと、通行が妨げになってしまう。「飛翔」や「噴水」をイメージし、八角形（市街地）に人々が集い、

交流の中心地が、駅の駅前におけるような意味を込めた。八角形から伸ばした模様は、銀河系の形をイメージし、多種多様なものが

名古屋で交わり誕生し、無限の可能性を表現した。

2. 道路に面した黄色い部分：「SRT」の乗降口

となっているターミナル駅として、電車以外の乗り換えを全て纏めるべきだと考えた。横断歩道者を誘導しつつ、斜照に地面の色を変え、分かりやすい線と市街の「ハ」を上空から見るときの発見できるようにした。

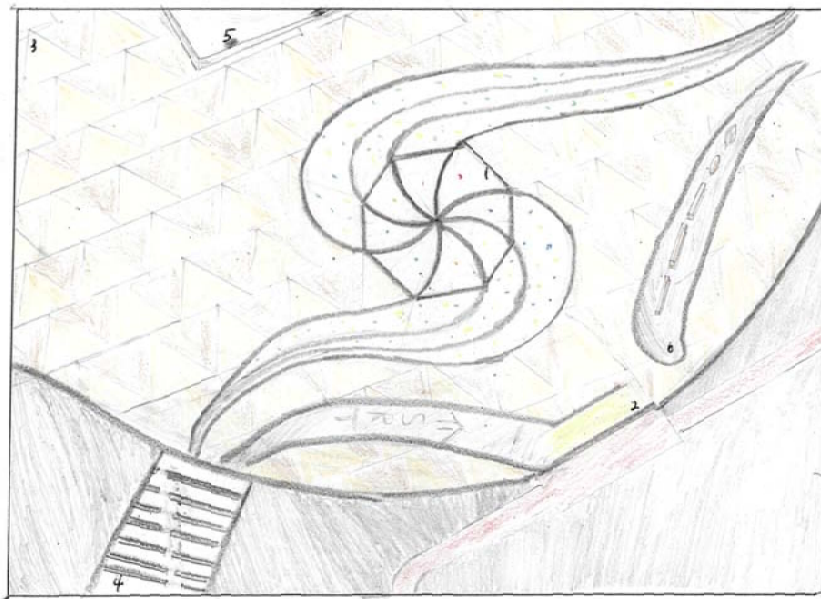
3. 地面の模様：三角を並べたためにした。

三角でうめられた街の地面はあまり見たこと無く、他は街の差別化として考えた。

そして「1、2」の模様をより強調できるように三角を採用した。

4. 横断歩道を斜めに間をへば：台湾でデザインされた、錯覚を利用した歩行者を誘導する横断歩道。歩行者の接触を避けるようにつくられている。

5. 東山線中央改札階段の屋根下に小型のプロジェクター：物を置いていない広場に投影は、主な利用目的は道案内だが、季節ごとイベント等にも使用が可能なため、広告と流すことにより、収入を得られるとも考えている。



6. 「ハ」の字の一画目：

ここには、五つのアイデアを考えた。

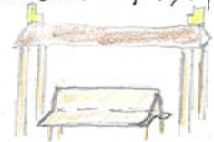
一つは、ベンチ、掲示板、タチ式案内板。

二つは、音光（霧）を出すものも考えている。

三つは、モールス符号で「ハ」を意味している。

・ベンチ、掲示板、タチ式案内板のデザイン案。

名古屋に中継りある三式将や、その城を模したようなものを考えている。熱田区の時木場、卸されていったような木を使うことで、地産の活用しやすさが生じる。



音光（霧）も出すアイデア外のデザイン案。

ホログラムをイメージしたものも考えている。名古屋の技術のアピールとしてカラクリやロボット（AR）で作成してもおもしろいだろう。



名古屋10年計画プロジェクト

コンセプト「歴史・文化」テーマ「夜・祭・遊」

呼称 Nagoya「夢回廊」

(1)名古屋駅(東口)空間部全面再開発事業。

「やすらぎ庭園 遊 遊(ゆゆう)池泉回遊式庭園」

目 的

豊かで、活力ある、おもしろい名古屋。行ってみよう！
住みたい！名古屋。全口から人が集まり、世界から注目を浴びる名古屋。財政豊かで魅力ある、夢のある街を創りあげよう。

概 要

○ 10年先の未来の街を思い描き、ビジョンと戦略を構築し、東京・大阪の厚い壁を越えて、全口から「人・物・金」を街に呼び込むため、東京・大阪の後進いではなく、名古屋の歴史と文化に「遊」を加えて、一大プロジェクトを展開する。

○ そのためには100億の拠出整備も10件実行するよりも1000億の事業を一件にしていく資金投下が必要である。

○ 従来の観念と常識にはらばず、不退転の決意をもって実行に移す。(リスクはあるが必ずリターンがあります。)

○ 「小出し投入」「段階投入」の愚を犯すことなく「選択的中」を肝に命すべきである。
(歴史が教える不変の鉄則である。)

○ 「費用対効果」と「プライオリティ」は不分の重要を争うが、拠点整備に優先する事業にしなければならぬ。
(10年先に標準を合わせて実施する。)

(1)名古屋駅(東口)空間部全面再開発事業。

呼称「やすらぎ庭園 遊 遊(ゆゆう)池泉回遊式庭園」

池泉回遊式庭園(例:池口、例:庭園)

目 的

○ 日本の駅舎の概念を断ち、発想を転換し、名古屋の歴史と伝統文化、観光発信のシンボルとして「やすらぎ庭園」をアピール。10年後を見据えた一大プロジェクトの中の重要拠点整備として差別化し、第一の駅舎空間をつくり上げる。

概 要

● A2画(別紙図1)「池泉回遊式庭園」(地下1階)

○ 駅舎通りの当該全画内は車両進入禁止とし、庭園は地下1階に立ち上げ、B2画部分すべてを地下街と接続する。
(芝生ライオンを地下通路の開通も含め計画する。)

○ 区画内外部にろくろ道部分と緊急時のための工事路を確保する(緊急用車線は一方通行時計回り、出入口は庭園B2画の東・南・北の3ヶ所に設ける。)

○ 庭園植栽は高さ15m程度に制限し、駅舎の2階の天板は庭園内ト修設転用する。

図 1

A2画「池泉回遊式庭園」地下1階スペース

B2画「いこいの広場」地上1階スペース

○ 開園は10:00~20:00とし、施設保全、防犯のため終了時はレール式自動スライドシャッター(遮断板は100%高)に閉鎖し進入禁止措置をとる。

○ 駅舎通りの現在の車道は地下2階へ通し南北に接続する。車道の出入口は東(池泉交叉点)、南(池泉交叉点)、北(ゲート交叉点)の3ヶ所に設ける。
(地下の構造上物理的にあり得ない計画撤回や変更した地下1階駅舎内部から出入り車両進入禁止とする。)

○ アプローチ、待機場はB2画外北側もしくはB2へ移動する。

○ 一般駐車場、B2画搬入車両の駐停車場は地下2階に設ける。

○ 区画内地下1階のテナントはB1区画外へ移動する。

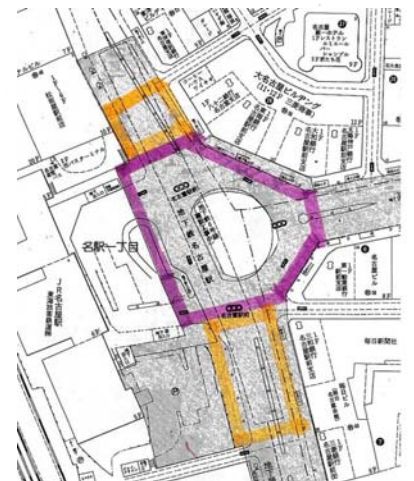
○ 駅出入口スペースと緊急用車線手前、スロープ(車椅子用)を併設した階段を地下1階公園部に接続する。

○ 1階外周部は庭園にマッチした木製又は竹材による柵を設置する。

● B2画(別紙図1)「いこいの広場」(1階)

○ 庭園部と連絡部の一体化したデザインとする。

○ 起伏に富み芝生広場とベンチ群を配置する。
ただし店舗、屋台、自販機、遊具等は配置しない。



駅東側

コンセプト ... 大ターミナル駅前 オープンスポーツ多目的
コートを!!

駅コンコース(東)

(スペースに収まるように建設)

← 歩道

→

← 名鉄へ



公道

CGを作る技術を持ちあわせておらず、手描きで申し訳ありません。
実際のサイズは現場のスペースに合わせて比率を調整して
設計できるもので。アイデア、コンセプトを示すことを優先しました。

ビジョン、モニターで普段は、名古屋の戦国武将などを映せば、
銅像などを作るより色々応用がきいて良いのではないかと思います。

氏名: 富田 耕平

説明文(駅東側広場)

駅東にはオープンなスポーツコートと少しの観客席があったら素晴らしいと考えています。これだけのターミナル駅前にコートがあるのは日本初どころか世界でも珍しいのではないかと思います。

なぜオープンスポーツコートがいいかというと、ある1種類のスポーツだけではなく、複数のスポーツを大勢の人が集まってプレーして楽しめるし、オリンピックやワールドカップの時には大型ビジョンで生中継をしてパブリックビューイングをして大勢の市民が開放的に楽しめる、楽しみを共有できるスペースになりうるからです。

今までの名古屋には残念ながら、オープンスペースで大規模な大会をみんなでみて応援する、という空間が無かったので体感できませんでした。これはせっかくの大都市なのに大きな損失だと思われます。例えばドイツのベルリンですと、サッカーの大きな大会のときにはブランデンブルク門の前に大勢の民衆が集まってパブリックビューイングで代表を応援しており、その熱気、楽しさはすさまじいものだそうです。こういう催しは街の活力に直結しますし、ドメスティックではなく、県外から来る人々にも、名古屋ってすごいなーと印象付けることができると考えます。

ただの広場にしてはいけな場所なのです。子供から大人まで利用できる。

朝は時間のある人を対象にしたヨガ教室やら運動講座などに利用、昼はお弁当売り場だったりランチできる場所にしたり、夜は仕事終わりにフットサルやバスケットやキャッチボールか。ミニコンサートにも使えます。屋根に透明なシートを利用して周囲から人の目が入るようにする。駅前にあるということで全国各地からチームを集めて大会もできるのではないかと?

東京駅や大阪駅はもう再開発が決まっているのでこれは真似できない発想。名古屋の市民、子供たちがどこいっても自慢できるアイデアのスペースだと思います。子供の習い事にこのコートを使い、その間親は周りで買い物など、教室が終わったら迎えに来て帰宅、意外とこれができる場所は少ない、需要はあると考えます。

このようなオープンコートだと利用の用途が無限大にあることが大きなメリットです。著名人を招いてのイベントもここでやれば、どこかのビルの密室でやるよりも通行人、市民へのポジティブな影響は大きくできると計算できます。

選挙のときにも演説をここでやれます。名古屋の新名所になるのではないのでしょうか?

追記) ロボット開発などで作られた試作品を用いたロボット

ショー。展示もお客さんを集めてくれるメリットも!!

大学生の部活などチームの大会遠征で名古屋の街を行く。学生時代をなかなか、これは都心にないスペースがなかったが、これは本当にいい。試合を都心にプレーに来て、ついでに名古屋の街に慣れてもらえるメリットも。

駅西側、コンセプト



説明文(駅西側広場)

これは今まで暗かった名古屋駅西口広場のイメージを変えられるチャンスだと考えています。まず機能として新幹線やリニア、長距離バスを降りて町中を少し移動したいときに使えるスマートモビリティポートを提案します。(うすトリマブルでいえる!!)

近年、今までのような大型の公共交通機関以外に個人で動ける移動手段の開発がベンチャー企業などにおいて世界中で盛んにおこなわれております。名駅のようなスーパーターミナル駅においてこのようなスムーズに動ける小型モビリティに簡単に乗り換えられる空間を作ることは必須事項だと私は考えております。私自身一利用者としてはやくこうした機械を使って市内を移動したいとワクワクしております。時代の波もあり、世界中の旅行者が同じことを考えていると思われま。

レンタルスペース、ポートのデザインについては明るい色の木材を使用し、駅コンコース側は大きく開けた感じにして、屋根もつけて、電球もつけたらかなり明るい雰囲気空間になるのではないかと考えます。

さらに!

地元球団(名古屋グランパス、中日ドラゴンズ、バスケットボールチーム)のデザインをプリントした車をレンタルポートにおいておけば、これぞ名古屋!!と利用客も感じられる。(レンタカーとして貸出) → 利用客が車の名前だけでなく、クラブの宣伝になり、見物客も楽しい。いままで名古屋の球団の顔が町中でみえなかったため、表玄関に堂々と出す。イメージアップにしたいです。

すぐ隣に新幹線、リニア、長距離バスとあり、長距離移動機関から降りた旅行客らが次に気軽に使えて細かく町中を移動できるモノが確実に必要、あればみんなが使いたがると思います。

既に埼玉高速鉄道のある駅では、駅前に電動キックボードの設置が始まったようです。経産省で スマートモビリティチャレンジというプロジェクトも始まっており、社会全体でスマートMobを活用していこうという波がきています。

名付け、名古屋スマートモビリティポート。
Smart Mob Port

=名古屋SMP、と呼びたい。これで多くの人が親しめる。

造りが大変シリアルなため、時代がまた変わっても、再開発、リニューアルが容易なこともメリットです!!

氏名 富田 耕平

駅前広場と周辺の改良に関する一考察

青木 隆夫

名古屋駅は、多数の路線が集中するターミナルで、旅客もスムーズに目的地に行けるようアクセスが良くなければならない。

旅客は、通学、通勤、出張、行楽等様々の目的で駅を利用している。急ぎの人も多く居る筈、商業施設やイベント等は人混りを作り通行の妨害となり、設置や行事は行なわないようにする。

広場は見通しよく小さなモニュメント（コンコースの東西の金銀時計付近は非常に混雑しているので待合せの目印になる例えは名港水族館のシャケ、東山のコアラ、ロケットや地球儀等）を又、大きくならない植木もランダムに配すると良いかと思います。

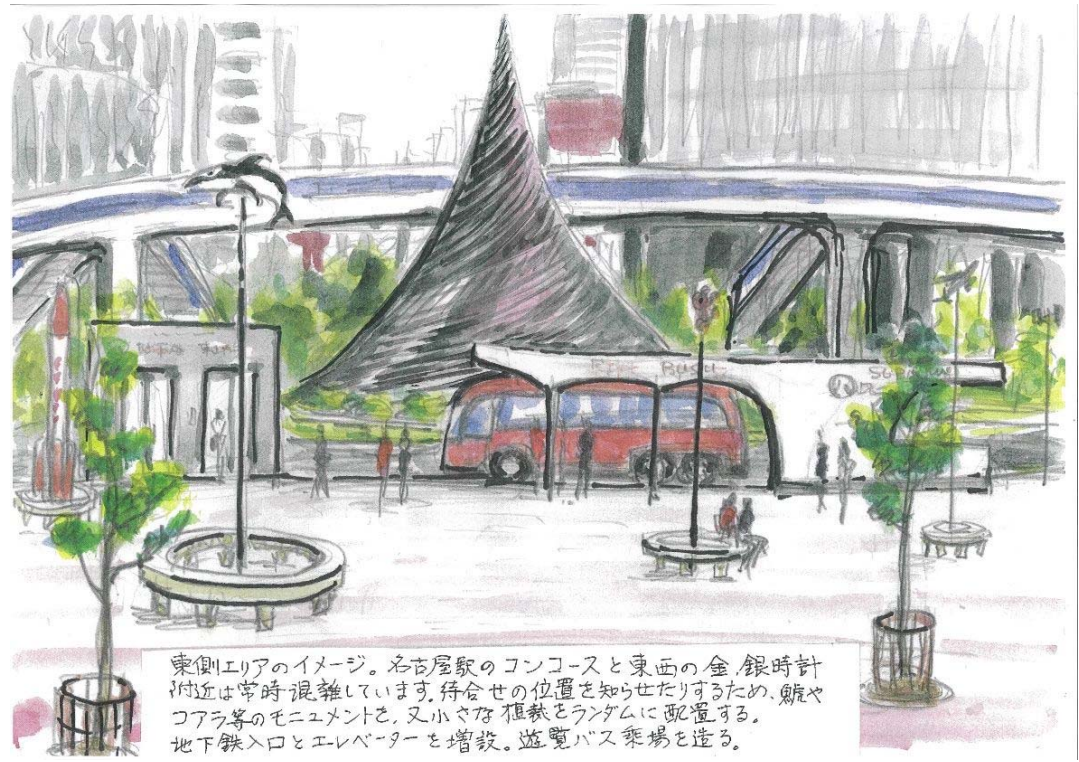
東側の広場はタクシー乗場と車のポール場、向家用車も同様廃止する。名駅通側の歩道は、西側に歩行者用の信号があり利用者が少ない。地下鉄改札口の出入口とエレベーターは利用し易くなる筈、改良と増設する。階段にはエスカレーター（特に降り）を設置する。

邪魔はそのままが良いと思う。一般車やタクシーがいなくなるのでスムーズにロータリーの周りを通過可能と考えます。信号と横断歩道は廃止する。

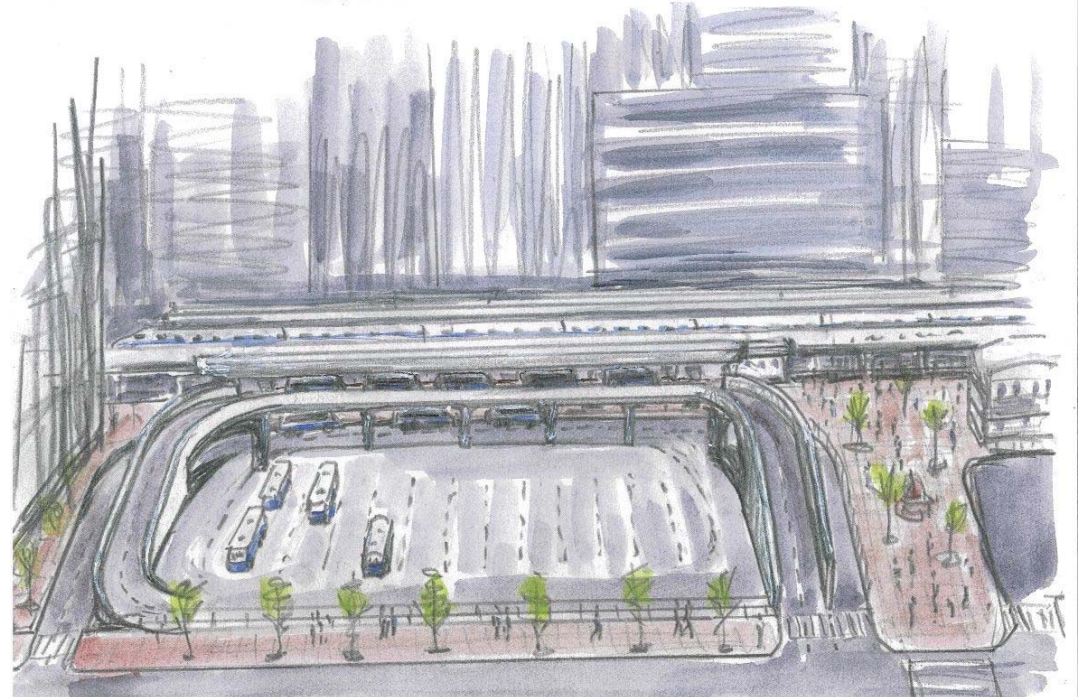
西側広場は広場と言うよりJRバス乗場の立体化等機能性を優先とし格好方面には大きな歩道と現存する地下街からの地上への階段部分を改良（エスカレーターやエレベーターの設置）する。

タクシー乗場等は小じんまりとする。

以上



東側エリアのイメージ。名古屋駅のコンコースと東西の金銀時計付近は常に混雑しています。待合せの位置を知らせたりするため、鯨やコアラ等のモニュメントを、又小さな植木もランダムに配置する。地下鉄入口とエレベーターを増設。遊覧バス乗場を造る。



西側エリアのイメージ。JRバス乗場と降車場と新幹線ホームの間に2階建ホームを造る。バスのモータープールをなくす。タクシーは右のポール。植木は西側へは地下街と接する。

名古屋駅東側エリア

コンセプト

「木」の都・名古屋を象徴する
木曾の木材により作られた
歓迎の門

その中央は
「ものづくり」のルーツ
城下の山車・からくりを
披露する舞台



唐子車（名古屋市 HP より）



山車以外にも、柱、梁を利用した飾りつけやイベントスペースにて名古屋の季節毎の伝統芸能等を披露。



有松絞



舞楽



まきわら提灯（熱田区 HP より）

普段は観光・ビジネス客へのおもてなしも意識し、地下街閉店後の遅くまで飲食（キッチンカー等）へ貸出。

(1) コンセプト

名古屋駅に立ち並ぶ大きなビル群。

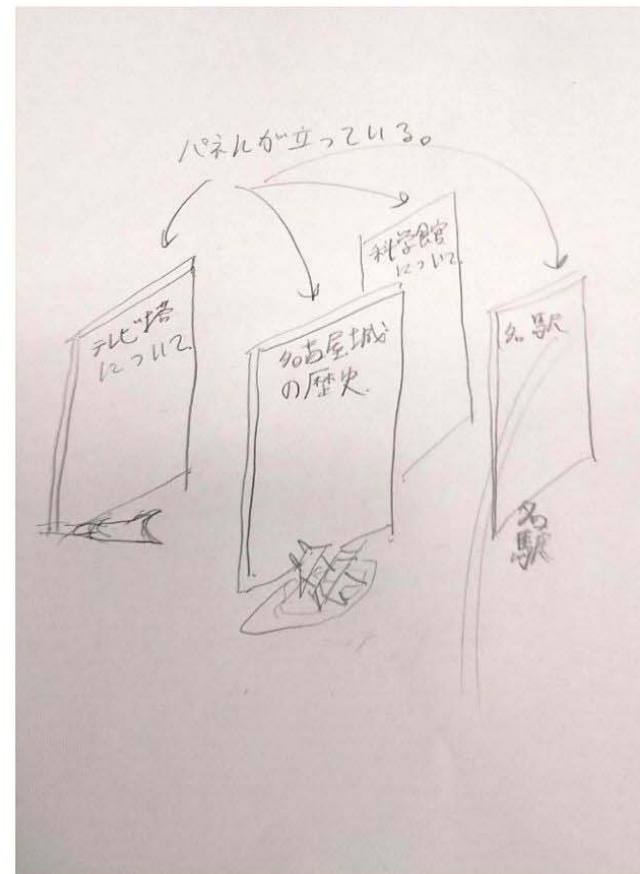
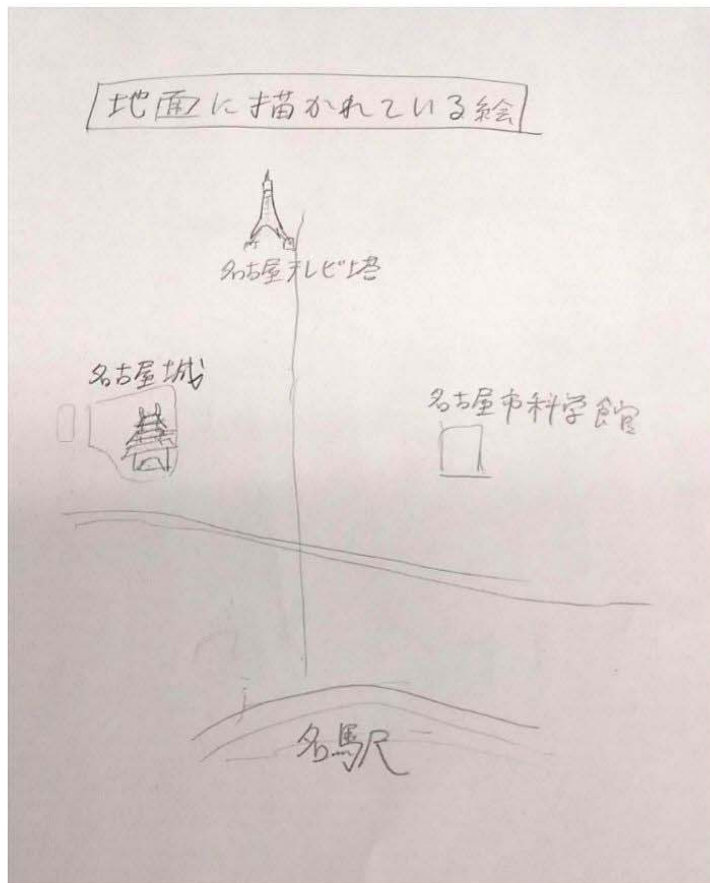
その先には名古屋が誇る名古屋城や名古屋市科学館が待ち
臨んでいる。歴史にも科学にも通ずる始めの一歩としての
窓口である。

(2) イメージ図・その説明文

地面に大きく名古屋市の上空写真を描き、丁度、名古屋城や名古屋市科学館
などの名所にあたる位置にパネルを設置し、その施設についての案内や歴史に
ついて紹介する。（参考：金山にある名古屋都市センター）

パネル候補

名古屋城、名古屋市科学館、名古屋港水族館、名古屋テレビ塔、
及びミッドランドスクエアや大名古屋ビルディング等の名駅周辺のビル



名古屋駅前に巨像のご提案

名古屋駅前のロータリーには北村西望の青年像を巨像にして復活してほしいと思います。かつては北村西望の青年像が名古屋駅前にありました。ますます発展する希望に満ちた名古屋市を象徴するものでしたが、いつの間にか、名城公園の片隅に追いやられています。現在、全く無機質で独創性のない単なる鉄パイプの幾何学的な構造物に代えられていますのは実に残念至極です。

北村西望の彫像は名城公園にもう一つ青春像があります。荒子の街角にも青年像がありますので、名古屋市民にも周知の作家です。何よりも長崎平和公園の像高10メートルの平和記念像は世界的に有名です。現代彫刻家としては高村光雲に次ぐ大家です。

名古屋駅前は今や高層ビルが立ち並び、2メートルほどの名城公園の青年像では目に留まらないでしょう。長崎の平和記念像が座像で10メートルなら、こちらは立像ですから、像高20メートルにしてもらいたいと思います。白鳥公園の国際会議場にあるミラノのスフォルツァ將軍の騎馬像はダ・ヴィンチの研究家、田中英道らが図面だけからコンピューターグラフィックスで再現したといわれています。名城公園の青年像をそれと同じように軽量プラスチックで拡大すれば過大な重量にはならないでしょう。色は問いません。名古屋の化学メーカーなら炭素繊維など耐久性の高い素材も供給できるでしょう。

名古屋は観光名所が東山動植物園や名古屋城や熱田神宮など数少ない街ですが、巨大な青年像が出来れば、これだけで名所になるでしょう。

信長、秀吉、家康の三英傑が候補に挙げられているようですが、信長像は岐阜駅前にあります。秀吉の將軍時代の居城は大坂城で、名古屋より大阪の発展に貢献した人です。家康も將軍時代の居城は江戸城か駿府城です。名古屋は織田家の菩提寺・万松寺に人質でいた町です。尾張徳川家を挙げるなら、初代・義直ではなく、名古屋を芸所にした第七代・宗春でしょう。しかし、懷古趣味に浸るより、未来志向で前進しましょう。

なお、ロータリーには緑の大木も欲しいので、これを超える高さが必要で、10メートル余の台が必要でしょう。天高く突き出た京都靈山寺や大船観音寺の白衣観音を参考にされたいと思います。

鳥居 登



北村西望作青年像